

2018年2月1日

# みずほディーラーズアイ (2018年2月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

## 米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 105.00 ~ 110.00

国際為替部 為替営業第二チーム 橋 雄史

### 先月の為替相場

先月のドル/円は下落した。月初2日、112円台半ばでオープンしたドル/円は、東京市場が年始休場となる中、112.06円まで急落するが、3日のFOMC議事要旨では米経済について楽観的な見方が示されたことから112円台半ばまで買い進められた。4日は日経平均株価や欧州株の上昇を横目に112円台後半まで上昇し、5日には113.32円まで上伸。その後、米12月雇用統計で非農業部門雇用者数が予想を下回ったことから113.02円まで下落するが、翌週8日は東京市場が休場となる中で月間高値113.40円まで上昇。9日は日銀による超長期債の買い入れオペが予想外の減額となったことを受け、テーパリングが進むとの思惑から円債利回りが上昇し、112円台半ばまで下落した。

月中10日は、中国が米債投資の減額や停止を検討しているとの報が伝わり、ドルの需給が緩むとの連想や米国が北米自由貿易協定(NAFTA)の離脱通知を検討との報道を受けて、111円台前半まで急落。11日は日銀買入れオペの金額が据え置かれると反発し111円台後半まで値を戻すが、15日は日銀のテーパリング観測が再び高まり、約4か月ぶりの安値110.32円まで下落した。16日は米政府機関閉鎖への警戒感から110.25円まで下落し、17日はドル売り地合いの中で110.19円まで続落。しかし「共和党指導部は政府機関閉鎖回避のため民主党不支持でも暫定予算法案を推進」とのヘッドラインや米株が史上最高値を更新する展開に111円台前半まで急反発。18日は日経平均株価が24,000円台に乗せたことで111.48円まで続伸するも、米政府機関閉鎖の警戒感が再度高まり110.69円まで反落。

月後半22日は、米上院での暫定予算案が可決されると111.22円まで上昇。23日には日銀金融政策決定会合で金融政策は据え置かれるも、トランプ大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード(緊急輸入制限)の発動に署名したことで貿易摩擦に対する懸念が拡大すると、ドル売りが進行。24日にはムニューシン米財務長官から「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」とのドル安容認発言を受けて、ドル/円は110.00円を下抜けた。翌25日はトランプ大統領が「最終的には強いドルを望む」と発言したことで109円台半ばまで反発するが、26日にダボス会議で黒田日銀総裁による「物価目標の達成に近づいている」との発言が材料視され、月間安値108.28円をつける。30日はトランプ大統領が一般教書演説を行ったものの相場への反応は限定的となり、FOMC結果発表を控える中、ドル円は108円台半ばで月を終えた。

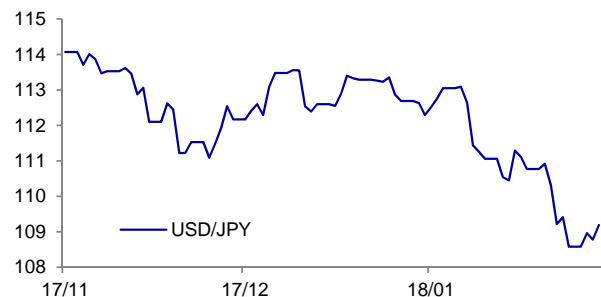
### 今月の見通し

今月のドル/円相場は上値重い展開を予想する。昨年末から1月にかけて進行しているドル安は未だに失速する気配が見られない。年明け以降は、税制改革案の成立に伴うドル買いフローも期待されたが、欧州を初めとした主要中銀の金融正常化観測が俄かに高まる中、ドルは各通貨に対して全面安の展開となっている。1月の日銀金融決定会合とECB政策理事会では金融政策が据え置かれたことで、ドル安の流れは一旦収束すると思われたが、トランプ大統領が新たにセーフガードを発動したことで、米国の通商政策懸念の高まりが一段と進む展開となり、ドルインデックスは3年ぶりの安値水準まで下落している。ドル/円についても先月は日経平均が26年ぶりの高値を更新したものの、連れて上昇する展開とはならず、本邦事業法人が様子見姿勢を強める中、海外勢主導のドル安相場に追隨する形で昨年9月ぶりとなる108円台まで下落した。ドル/円の下落局面では、機関投資家の対外証券投資フローが期待されたものの、昨今の米債利回りの急騰や史上最高値近辺で推移する米株式市場を横目に、本邦からの円投フローも限定的となり、リスクセンチメントが良好な一方、投資意欲は後退している印象。IMM通貨先物データを確認すると、直近1月23日時点の投機筋のドル売りポジションは昨年10月半ば以来の高水準まで拡大しているものの、円については依然としてネットショートポジションが高止まりしており、一段のドル売りが進行した際には、ポジションの巻き戻しから円高が加速する展開も予想される。

市場の注目が「主要中銀の正常化」と「米国の通商政策」に集まっている状況下、2月は日米欧で金融政策会合がないこともあり、一段とドル安が強まる展開が頭をよぎる。今月の注目は金融政策会合がない中で、2月8日まで延長した暫定予算案や2月末に期限を迎える債務上限問題に注目が集まるうが、スティーブンソン化を強める米債や各国の債券動向には注意が必要となろう。足元の経済指標を確認する限り、米国経済は堅調推移が続いており、米国の政治動向や通商政策の警戒感が解ければ、ドルは次第に買い戻されようが、就任2年目を迎えるトランプ大統領が、税制改革に次ぐ選挙公約の実現に向けて強硬姿勢を強める可能性は否定できない。2018年度は前年度と比べてビックイベントが少なく、次のテーマにフォーカスが当たるにはしばし時間を要す状況。ドル安が市場を支配している環境下、ドル円には下落圧力が押し掛かり、昨年9月につけた安値107.32円を下回った際には、もう一段の円高進行も想定され、値幅を伴った相場展開に注意が必要となろう。

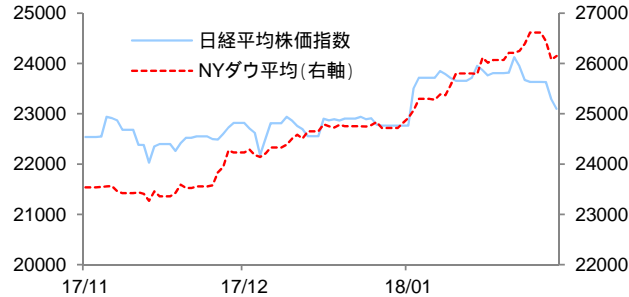
### 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



### 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



### 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/4	米ISM製造業景況指数	12月	58.2	59.7	58.2
1/4	米ADP雇用統計	12月	190K	250K	185K
1/5	非農業部門雇用者数変化	12月	190K	148K	252K
1/5	失業率	12月	4.1%	4.1%	4.1%
1/5	平均時給(前年比)	12月	2.5%	2.5%	2.4%
1/6	米ISM非製造業景況指数	12月	57.6	55.9	57.3
1/12	小売売上高(前月比)	12月	0.5%	0.4%	0.9%
1/26	GDP(年率/前期比)	4Q	3.0%	2.6%	3.2%
1/29	PCEコア(前年比)	12月	1.5%	1.5%	1.5%
1/31	米ADP雇用統計	1月	183K		250K

## カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

### ドル・ブル ( 3名、107.00～113.00、中心107.00～112.50 )

加藤	108.00 ～ 113.00	米財務長官がドル安を志向すると考えるのはナンセンス。ただしユーロドルに明らかに見られるように中期的なドル・ブルマーケットに調整が入っていることは事実。従ってドル円の下値はユーロドルの上値次第であると考ええる。
藤巻	107.00 ～ 112.50	ドル安が市場のテーマとなるも、景気は良好でありFRBも出口に向け動いている。金利は上昇、リスク資産も底堅く推移していることから、基本的にドル売り一巡後は再度ドル買いが入ってくるのではないだろうか。但し、リスクオフ局面での円買いリスクには要注意。
西谷	107.00 ～ 112.00	前月は日銀の国債買入オペ減額、欧州通貨の急騰等を背景にドル安円高が進行した。しかし、米金利の水準と照らし合わせれば現状のドル円のレベルは低すぎると感じており、金利との相関関係が戻る局面は訪れると考えている。107-108円近辺をレンジ下限と捉え、持ち直す展開を予想。

### ドル・ベア ( 8名、105.00～112.50、中心106.00～111.00 )

田内	106.00 ～ 111.00	ムニューシン米財務長官によるドル安容認発言に加え、中国や韓国に対するセーフガード発動を受け、米国からの貿易不均衡は正圧力に対する警戒感からドルは積極的に買い進め難い。ドル高修正局面は継続との見方から上値の重い展開を見込む。
山下	105.00 ～ 110.00	世界各国の中銀がタカ志向に傾いている状況下、利上げの終点が近いFOMCの追加利上げはドル買い材料とはならず。円買い要素となる日銀出口観測も依然燃り続けており、ドル安・円高のトレンドは続くものと考ええる。
矢野	105.00 ～ 111.00	トランプ大統領やムニューシン米財務長官の通貨に関する発言には一貫性が無く、マーケットは疑心暗鬼となっている。米利上げ観測はある程度織込まれていることもあり、新たなテーマが見つけにくい状況下、1月同様上値の重い展開が続くと予想。
佐藤	106.00 ～ 111.00	世界的に景気が好調な中、FRB及びECBは既に非常時の金融政策の転換を進めており、日銀の緩和政策転換に対する思惑が高まりやすい。加えて、米国の通商政策が保護主義に傾く中、ドル安による価格競争力向上を志向するとの警戒も残存しており、上値の重い展開を予想する。
岡本	105.00 ～ 112.50	相応程度に進んだ円高だが、109円台でも上値の重さが目立つ。ドル買いの新規材料に乏しい中、他通貨主導でドル売りが進んでおり、日銀のテーパリング観測を契機とした正常化観測もサポートとなり、ドル円は昨年安値の107.32を下抜ける可能性も。
森谷	106.00 ～ 111.00	米経済は底堅い状況が続いているものの、足元のマーケットにおいてはFOMCよりもECBや日銀の金融政策に対する注目度が高まっている印象。ユーロや円の買い材料に積極的に飛びつきやすい状況は継続すると考えており、相対的にドル安が進行する展開を予想する。
鶴田	106.00 ～ 112.00	長期金利の上昇や堅調な米株を横目に足許では基調的なドル安相場が続いている状況。違和感ある相場感ではあるものの、トランプ氏によるドル高容認発言後も反転の兆しは見えていない。3月FOMCまで特段目立ったイベントもなく、しばらくはこの相場感が続きそうだ。
大熊	106.00 ～ 110.00	トランプ政権による移民政策や通商政策に対する保護主義が再び懸念されている状況下では、ドル売りの地合いになりやすいだろう。ただ、FRBによる3月の追加利上げ観測もあることから、下値は限定的か。

## ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.2100 ~ 1.2700  
EUR/JPY 133.00 ~ 138.00

国際為替部 為替営業第二チーム 森谷 友一

## 先月の為替相場

先月のユーロ相場は大きく上昇する展開となった。月初2日に対ドルで1.20 近辺でオープン。クーレECB 理事が9 月に期限を迎える拡大資産購入プログラム(APP)について延長しない可能性に触れたこと等から1.20 台後半まで上昇。3 日はFOMC 議事要旨発表後にドル買いの流れが強まったことを受け1.20 台前半まで下落。4 日はメルケル独首相率いるキリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)とドイツ社会民主党(SPD)の連立政権樹立に向けて楽観的な見方が示されると1.20台後半まで反発。5 日は米12月雇用統計後に全般的なドル買いの流れとなり1.20台前半まで値を下げた。第2週初8 日から9 日にかけてもユーロ売り優勢地合いは続き一時月安値となる1.1916まで下落した。10 日は一旦1.20 を上抜けるも、すぐに伸び悩み1.19台半ばまで反落。11 日は12月ECB議事要旨においてフォワードガイダンス文言が2018 年の早い段階で再検討される可能性が示唆され、1.20 台半ばまで上昇。12日は独連立政権樹立について暫定合意が報じられると1.22台前半まで上昇した。

第3週15 日も前週の流れを引継ぎ1.22 台後半まで上昇。16 日はECB高官のユーロ高牽制発言等から1.21 台後半まで値を下げたが、バイトマン独連銀総裁の「年内の資産買い入れ終了が適切だろう」との発言を受けて1.22 台後半まで値を戻した。17 日はノボトニーECB 理事のユーロ高牽制発言が意識され1.21 台後半まで値を下げた。18 日はクーレECB 理事のユーロ圏は景気拡大期であるとの発言等から1.22 台半ばまで値を戻した。19日は1.22台での方向感に乏しい推移となった。第4週22 日に独連立交渉開始が正式に決まり1.22 台後半まで値を上げた。23 日もユーロ高地合いが継続し1.23 を上抜ける場面がみられた。24 日はドラギECB 総裁の発言がECB は足許のユーロ上昇を危惧していないと解釈され1.24 台前半まで続伸。25 日はECB政策理事会後のドラギ総裁の記者会見で最新のユーロ高にさほど強い警戒感を示さなかったことからユーロ買いが勢いづき一時月高値となる1.2538 をつけた。だが、その後はトランプ大統領の発言を受けてドル買い戻しが強まり1.23 台後半まで急反落し、26日は1.24台前半を中心としたもみ合い推移となった。第5週29日はでブラントECB理事が「(債券買い入れ策について)突然終了させるよりも3ヶ月程度かけてゼロにする方針を支持している」との発言を受けて1.23台前半まで下落するも、30日はカタルーニャ自治州議会が、プチデモン前州首相の再信任表決を延期したことで1.24台を回復。月末は1.2413で取引を終えた。

## 今月の見通し

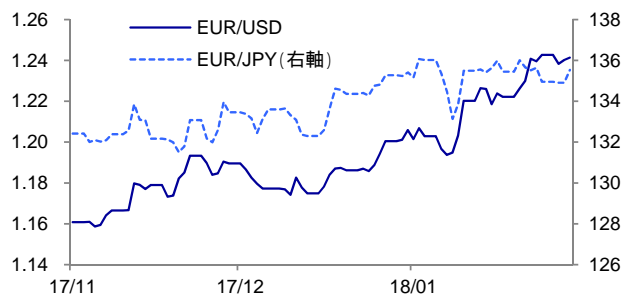
今月のユーロ相場は底堅い推移を予想する。

先月はユーロ相場が大きく上昇する展開となったが、その主な要因として挙げられるのが、ECBの金融政策正常化期待。先月11日に公表された12月ECB議事要旨では「金融政策のスタンスやフォワード・ガイダンスに関するあらゆる次元に係る文言を2018 年の初めに再検討する可能性がある」との文言がマーケットではタカ派的な内容と捉えられた。その後、ユーロ高が進行したことを受けてECB高官から相次いでユーロ高牽制発言が飛び出していたため、25日に開催されたECB政策理事会においても同様の牽制が想定されていた。実際にドラギ総裁からは「ユーロのボラティリティが不確実性を生む」、「年内利上げの可能性は極めて小さい」との発言があったものの、事前に牽制発言に対する警戒感が相応に高まっていたこともあり、これらの発言は強いトーンとの受け止められず、その後むしろユーロ高が進行した。引き続きECB高官によるユーロ高牽制発言には注意が必要ではあるものの、先月のユーロの大幅上昇を見る限り、マーケットにおけるECBに対する正常化期待は根強い様子が窺え、ユーロ相場を一段と押し上げる要因となり得るだろう。また、欧州における政治リスクとして独連立交渉の行方に関心を集まっていたが、メルケル独首相率いる第1党CDU・CSUと第2党SPDが正式に連立交渉することが決定した。さらに独立問題に揺れるスペイン・カタルーニャ自治州議会はプチデモン前州首相の再信任表決の延期を表明しており、中央政府との対立激化はひとまず回避される格好となった。今後の動向についても注意深く見守る必要はあるものの、足元ではこれらの政治リスクに対する過度な警戒感は後退している状況であり、大幅なユーロ売りを招く材料となる可能性は低下していると言えそうだ。

一方で、ユーロ圏外に目を向けると、2018年に入りドルが買われづらいう状況が続いている。米国経済は昨年と同様に底堅く推移しており、今後も追加利上げが行われる公算が大きい。しかし、市場は織込み済みであり、ドル買い要因とはなっていない。かかる状況下、先月にユーロ相場が大きく上昇したことを勘案すると調整の動きも想定されるものの、下落局面においては相応の押し目買い意欲も見られると考えられるため、今月のユーロ相場は底堅い推移を予想する。

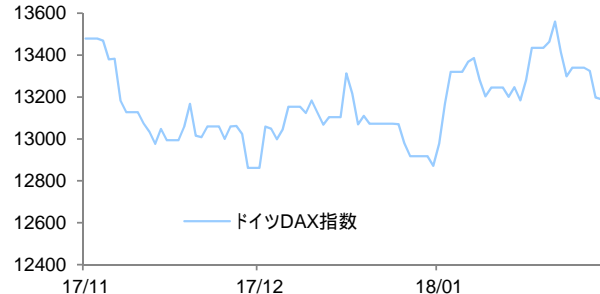
## 為替の動き

(資料) ブルームバーク



## 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



## 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	ユーロ圏製造業PMI(改定値)	12月	60.6	60.6	60.6
1/8	ユーロ圏小売売上高(前月比)	11月	1.3%	1.5%	-1.1%
1/9	独鉱工業生産(前月比)	11月	1.8%	3.4%	-1.4%
1/17	ユーロ圏CPI(前月比)	12月	0.4%	0.4%	0.1%
1/23	独ZEW景況指数(期待)	1月	17.7	20.4	17.4
1/24	ユーロ圏消費者信頼感	1月	0.6	1.3	0.5
1/25	ECB主要政策金利	-	0.0%	0.0%	0.0%
1/25	独IFO景況感	1月	117.0	117.6	117.2
1/30	独CPI(前月比)	1月	-0.6%	-0.7%	0.6%

## カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

### ユーロ・ブル (7名、1.2000～1.3000、中心1.2100～1.2700)

山下	1.2300 ～ 1.2600	ECBとしては量的緩和縮小を進めている以上、強いトーンでのユーロ高牽制を発信しづらいのでは。ドル安トレンドの継続・BOE利上げ期待からの債券上昇による連れ高もあり、ユーロは底堅い展開になると予想する。
佐藤	1.2200 ～ 1.2700	拡大資産購入プログラムの終了期限である9月が近づく中、足許の堅調なユーロ圏景気を手掛かりに、ECBがタカ派的判断に傾くとの期待を背景にユーロは堅調推移が継続しそうだ。
藤巻	1.2000 ～ 1.2700	景気は良好、政治も安定。懸かる中ユーロが上昇する中においてもECB高官サイドから出口政策に向けたタカ派発言は続いている。原油が高値圏で推移する中、インフレ圧力が上昇する場合は、一段とユーロ高となる可能性も。但し、ロングポジションが積み上がる中ポジション調整売りには注意。
西谷	1.2200 ～ 1.2800	前月のユーロの値動きは明らかに急激すぎると感じているものの、トレンド自体はユーロ高が継続する可能性が高い。フォワードガイダンスの変更⇒QE終了⇒利上げのプロセスが想定よりも早まるとの期待感は根強いと思われ、ユーロブル目線を維持。
森谷	1.2100 ～ 1.2700	引き続きECBに対する正常化期待を背景に底堅い推移を予想。急騰が続いているだけに調整の動きには注意しておきたいが、先月ECB高官から牽制発言が相次いだ際も下押し圧力はさほど大きなものとはならなかったことを勘案すると、今月についても下落局面では相応の押し目買い意欲が見られそうだ。
鶴田	1.2000 ～ 1.3000	足許で急激に進むユーロ高によるインフレ鈍化懸念はあるものの、ドラギ総裁による牽制発言もそれほど強い表現でなかったことに鑑みればもう少し余裕がありそう。堅調な経済指標が続く中で政治不安も後退している状況下、引き続き堅調推移を予想する。
大熊	1.2100 ～ 1.2700	足許のユーロ圏経済指標は堅調なものが多く、金融正常化期待を背景としたユーロ買いは続くと思われる。加えて、ドラギECB総裁からはユーロ高についての明確な牽制がないこともユーロの支援材料となるだろう。

### ユーロ・ベア (4名、1.1700～1.2700、中心1.2015～1.2565)

田内	1.2100 ～ 1.2600	ドラギECB総裁からのユーロ上昇に対する牽制発言、フォワードガイダンス変更に対する消極姿勢も相俟って、ドル高修正局面ではあるものの積極的に上値を追う展開には至らないとみる。欧州の政治混迷不安も残っており伸び悩む展開を予想。
加藤	1.2030 ～ 1.2530	2008年からのユーロ下降トレンドの38.2%戻しを達成している。テクニカルには1.3台に向けて更に調整が進む可能性は排除できないものの、ユーロ高を受けてのユーロ圏ファンダメンタルズに対する悪影響は無視できなくなると考える。
矢野	1.2000 ～ 1.2500	ドル売りに伴うユーロ高が進んでいる中、ECBメンバーによる通貨高牽制もトーンが高まってきている。投機筋のポジションも相応に溜まってきており、一段のユーロ高は想定せず、上値の重い展開を予想。
岡本	1.1700 ～ 1.2700	ECBの正常化期待を消火する発言が当局者からも目立つようになっており、一時1.25台を示現したユーロへの買いは落ち着くか。政治リスクも後退して環境は良好したように見えるが、ユーロ高も金利上昇も経済への重石として意識されていくだろう。



## 英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.3800 ~ 1.4500  
GBP/JPY 150.00 ~ 159.45

欧州資金部 山本 泰平

## 先月の為替相場

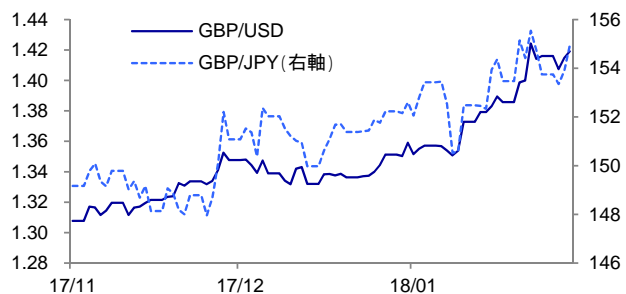
1月のポンドドル相場は1.3515でオープンし、英小売や英景況感が鈍化したリ、政局も全く好転する気配も無かったが、EU離脱の国民投票について英国で再実施論が浮上したことや、米政府閉鎖等国外要因で上昇。英経済指標では、12月建設業PMI(結果:52.2、予想:53.0)、12月製造業PMI(結果:56.3、予想:57.9)等が予想を下回り景況感に陰りが確認される一方、11月の英鉱工業生産指数が前年比+2.5%と予想(+1.8%)を大幅に上回る等、先行・遅行指数で乖離がみられた。ブレグジットを巡っては、87%の英労働党員が2回目の国民投票実施を支持しているとの世論調査を受け、トニー・ブレア英元首相が労働党指導部は国民投票の再実施を支持すると発言。EU離脱回避の期待がにわかに浮上したが、ジェレミー・コービン英労働党首が単一市場残留を目指す野党超党派の会合(SNP主催)への出席を拒否すると、結局、野党の足並みが揃わない中、実現まで漕ぎ着けることは無いとの見方に変わりと1.3458まで下落。メイ英首相は英保守党の支持率回復を狙って、内閣改造を断行したが、新味乏しく横滑りを求めた閣僚に拒絶されるなど、結局、メイ首相の求心力の低下を示しただけだった。12日、離脱派の中心的な存在のファラージ元英独立党党首が、国民投票を再実施すべきとのツイートを発信。即座に英首相報道官から「EU巡る2度目の国民投票を行うことはない」と声明が発せられたが、国民投票再実施の機運が再燃。ロシアの英EU離脱投票への介入疑惑も相俟って、16年6月の国民投票以来の高値まで反発。英中銀のソーンドース委員がソフト・ブレグジットへの期待や、英経済に強気な見方を示し、追加利上げが必要になるだろうと発言したこともポンド買いを促した。19日、英12月小売売上高指数が前月比-1.5%と予想(-0.6%)より大幅なマイナスを記録し、月間ベースの落ち込みとしては国民投票以来の大きさとなった。しかし同日、米上院がつなぎ予算案動議を否決し米政府機関が一部閉鎖へされたことで、ポンドは対ドルでサポートされた。23日、EU関係筋の話として、英国がノルウェー型モデルで合意したことを英紙が報じると、一段高。1.40台を上抜け19ヶ月来の高値を更新。その後、ムニューシン米財務長官が米国の貿易にとって「ドル安は良いこと」と発言した一方で、ハモンド英財務相が高騰したポンド相場について「非常に満足している」と述べると、英米のスタンスの違いが鮮明化し1.4346まで上昇。

## 今月の見通し

先月は、ハモンド英財務相の為替容認発言が波紋を呼んだが、実のところ、最大貿易相手であるユーロを念頭に置いた発言との見方がある。ユーロポンドが安定する中、英政府にとって対ドル相場はそれ程、重要でない。今後も、対ユーロで安定する限り、対ドルでのポンド高を論って、口先介入してくるとは考えづらい。金融政策を巡っては、2月は、英中銀政策金利発表と四半期インフレ報告の発表が予定(8日)されるが、英12月CPIは3%上昇と、中銀予想と一致したことから、金利は据え置かれ、経済見通しも、前回発表時(11月)から概ね変化は無いと予想する。2回目の国民投票実施については、野党の足並みが揃わない中、未だ現実性は乏しい。EU大統領や仏大統領等も挙って英国がブレグジット撤回なら歓迎し、今も方針変更受け入れるとEU残留を呼び掛けたが、英政府が応えることは無かった。とは言え、「ノルウェー型モデルで合意」との英紙報道等も相俟って、市場ではソフト・ブレグジット期待が高まった。EU側交渉責任者のバルニエ氏が「2018年3月までに英国はEUに何を望むかを提示するべき」と期限を設けたことから、今月中にも具体案が示される観測も浮上している。果たして過半数割れのメイ政権で、難しい舵取りを乗り越えることができるのか焦点だろう。英政府が環太平洋連携協定(TPP)への参加に関心を示しているとの報道があったが、2020年末(移行期間満期日)まで英国が米中等との自由貿易協定(FTA)交渉を行うことを禁止する指針をEUと合意したばかりで、信義にもとる動きだった。デービス英EU離脱担当相は、この段階になっても「単一市場参加のために英国が費用を支払うことは無い」と発言。現実性乏しい楽観的な発言が目立っており、政府の遂行能力に懐疑的な見方が浮上することは自然な流れである。メイ英首相は英保守党の支持回復を狙って、内閣改造を断行したが新味乏しく、横滑りを求めた閣僚に拒絶されるなど、結局、メイ首相の求心力の低下が浮き彫りになった。末期状態の英政府が強硬離脱派の反発を招く「ノルウェー型」ブレグジットに態度を翻し、存続し得るかは不透明だ。米国がドル安を容認し続ける限り、ポンドドルは暫く上昇トレンドが続くかもしれないが、過度なソフト・ブレグジット期待が、失望に変われば反落するリスクを孕んでいる。

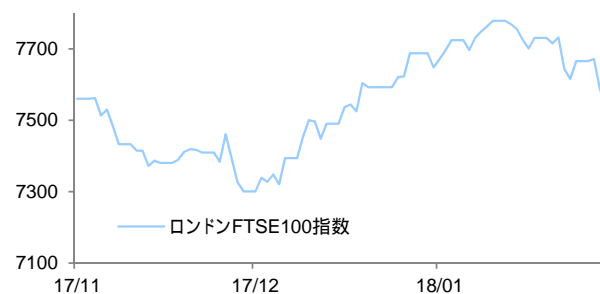
## 為替の動き

(資料) ブルームバーク



## 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



## 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	製造業PMI	12月	57.9	56.3	58.2
1/3	建設業PMI	12月	53.0	52.2	53.1
1/4	サービス業PMI	12月	55.0	54.9	54.9
1/10	鉱工業生産(前年比)	11月	1.8%	2.5%	3.6%
1/10	製造業生産(前年比)	11月	2.8%	3.5%	3.9%
1/16	消費者物価指数(前年比)	12月	3.0%	3.0%	3.1%
1/19	小売売上高(含自動車/前年比)	12月	-1.0%	-1.5%	1.1%
1/24	ILO失業率	9-11月	4.3%	4.3%	4.3%

## 豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.7830 ~ 0.8200  
AUD/JPY 86.00 ~ 89.50

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 山口 美紀

## 先月の為替相場

1月の豪ドルは0.78近辺から0.81台に上昇。2015年5月以来の高値0.8136を付けた。

2日、豪ドルは0.78近辺でオープン。3日、米12月ISM製造業景気指数が予想を上回ったことや、FOMC議事要旨での緩やかな利上げ路線の継続と米経済について楽観的な見方が示されたことから、米株上昇。世界的に株価が堅調推移し、リスク選好の動きが強まり、リスク通貨の豪ドルは0.78半ばで底堅く推移。5日、豪11月貿易収支が予想:黒字+550百万豪ドルに対して赤字▲628百万豪ドルと、大幅に予想を下回るも、豪ドル下押しの動きは一時的で、0.78半ばをキープ。

11日、豪11月小売売上高(前月比)が予想:+0.4%増加に対して同+1.2%増加と、予想を大幅に上回り、豪ドルは0.78後半に上昇。更に、米12月生産者物価指数が予想を大きく下回ったことから米債利回りが低下し、豪ドルは0.79にタッチ。翌週15日、米国祝日で市場参加者少ない中、世界的な株高や商品高を受けて、豪ドルは0.79半ばにじりじりと上昇。17日、豪1月Westpac消費者信頼感指数が前月比+1.8%増加と約4年ぶりの高水準になったことを受けて、豪ドルはじりじりと上昇。海外市場で0.80台に浮上した。翌日、豪12月雇用統計は強弱入り混じる内容となり、0.79後半を中心にもみ合い。

19日、米政府機関閉鎖が懸念されたものの、消費関連株が上昇を主導し、米株最高値更新。リスク選好の動きが強まり、リスク通貨の豪ドルも0.80台に反発。24日、ダボス会議でのムニューシン米財務長官のドル安容認発言やロス米商務長官の通商関係悪化を懸念する発言を受けて、ドルが急落。豪ドルは0.80後半に急伸した。その後、26日、オーストラリア・デー祝日で豪ドルの市場参加者が少ない中、アジア株・欧米株の上昇を受けたリスク選好の動きから、豪ドルもじりじりと上昇。約3年ぶり高値0.8136まで上昇し、0.81近辺で越週した。31日、豪9〜12月期消費者物価指数(CPI)は予想を小幅に下回り、結局豪ドルは0.80後半で越月した。

## 今月の見通し

2月の豪ドルは下落を予想する。6日(火)の豪準備銀行(RBA)理事会でのRBA声明文にて豪ドル高牽制の文言の有無を注目する。

1月の豪ドルは0.78から0.81と約4%も上昇し、2015年5月以来の高値0.8136を付けた。豪ドル上昇の主な要因は、ドル安と商品高だ。ドルインデックスは90割れと2014年以来の水準に下落している。ドルインデックスは、米国のみ金融正常化に動くとの観測の下、2014年〜2016年に80から100と急上昇した。現状はそのドル高の調整でドルインデックスが下落していると考えている。更に、1月、ムニューシン米財務長官より「(短期的には)弱いドルは貿易や機会の観点から明らかに良いことだ」とドル安「容認」どころか「歓迎」とも読み取れる発言があった。翌日にはトランプ大統領より前日のドル安発言を火消しするべく、「最終的に強いドルを望む」との発言があったものの、為替市場の反応は限定的だった。トランプ大統領は2017年4月にドル安容認発言もしており、トランプ大統領の発言に一貫性は無い。また、好調な世界景気見通しを背景とした商品需要増加観測や、ドル安から値ごろ感が出ていることを理由に、商品価格は底堅く推移している。ドル安や堅調な商品価格は豪ドルのサポート材料となろう。テクニカル的にも、豪ドル1月の終値は、2014年11月以来となる豪ドル月足チャート一目均衡表の雲(支持帯)に突入し、豪ドル買いのシグナルが点灯している。

しかし、最近の豪ドル急伸を受けて、RBAは2017年8〜11月のRBA声明文に挿入していたような豪ドル高牽制文言を2月のRBA声明文に挿入するだろう。これを受けて、豪ドルは下押し圧力がかかり、ここ最近の豪ドル高が調整されると考えている。下値サポートラインは豪ドル月足チャート一目均衡表雲(支持帯)下限0.7830と見る。

以上を踏まえ、RBA声明文による豪ドル高牽制により、豪ドルは一旦下落すると考えるが、ドル安・商品高・テクニカルサポートにより、下落幅は限定的となる。

## 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で今流行っていること』

\*Activewear:主に女性の中で、かわいいアクティブウェアに対する関心が高まっている。ジムだけではなく、カフェや友人宅など週末は24時間アクティブウェアとの噂も。

\*Skinny Jeans:運動や食事コントロールで得た締まったボディを惜しみなく魅せるべく、スキニージーンズ。  
\*Beards:鬚髯。確かに、日本よりも圧倒的にヒゲを生やしている男性が多い。電気シェーバーとカミソリのW使用で整えているらしく、ヒゲ男子は何だかんだオシャレ上級者。

\*Boots:男性の中でひそかにブーツが流行っている模様。R.M.WILLIAMS、日本では女性の間でUGGが流行っている。ビーチサンダル王国と思っていたが、意外にもブーツも人気か。

\*Health-Conscious Eating Culture:チアシード、キヌアサラダ、オーガニック、健康志向は非常に高まっている。  
\*Niche Drinks:クラフトビア、クラフトジン、オーガニックワイン、ソイラテ、アーモンドミルク、コンプチャ、ケフィア。飲み物で他人との差別化を図る。

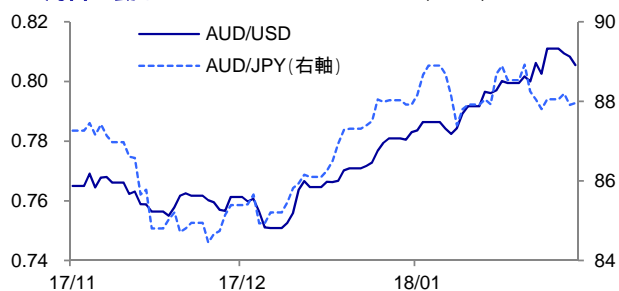
\*Filter Coffee:エスプレッソコーヒーマシーが多いオーストラリア。しかし、フィルターコーヒープーム到来の兆し。実はシドニー支店長も流行最先端に行く！

\*EMOJI:日本発。今後は絵文字に加えてスタンプも？  
\*Trampoling:壁トランポリン、トランポリンドッジボール、トランポリンバスケ。翌日は全身筋肉痛間違いなし。

ソイラテやコンプチャ持ってアクティブウェアを着たり、鬚髯生やしてブーツ履けば、流行の最先端？皆さんも明日からいかがですか？

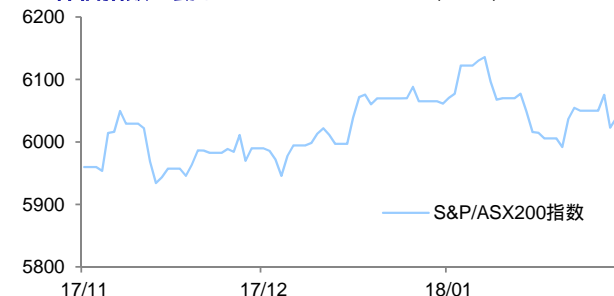
## 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



## 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



## 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/5	貿易収支	11月	A\$550M	A\$628M	A\$302M
1/9	建設許可件数(前月比)	11月	-1.3%	11.7%	-0.1%
1/11	小売売上高(前月比)	11月	0.4%	1.2%	0.5%
1/17	Westpac消費者信頼感指	1月	-	1.8%	3.6%
1/17	住宅ローン承認者件数(前)	11月	0.0%	2.1%	-0.6%
1/18	雇用者数	12月	15.0千人	34.7千人	63.6千人
1/18	失業率	12月	5.4%	5.5%	5.4%
1/31	CPI(前年比)	9-12月	2.0%	1.9%	1.8%
1/31	トリムCPI(前年比)	9-12月	1.8%	1.8%	1.8%
1/31	加重平均CPI(前年比)	9-12月	1.9%	2.0%	1.9%



## カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.2000 ~ 1.2500  
CAD/JPY 87.35 ~ 91.50

グローバルマーケット業務部 カナダ室 那須 絃子

## 先月の為替相場

2018年1月のUSD/CADは1.2546でオープン。

5日発表のカナダ12月雇用変化数は前月比7.86万人増と予想の2000人を大幅に上回り、12月失業率もまた1976年以来最低水準となる5.7%となった。更に賃金も先月の前年比+2.7%から+2.9%と上昇が見られ発表後は17日の政策金利利上げ観測が急速に強まり、カナダドルは急伸。対USDドルでは発表前の1.2515から1.2370までカナダドル買いが進んだ。

10日、「米国が北米自由貿易協定(NAFTA)から離脱する可能性が高まっている」、「まもなくトランプ大統領が離脱表明を行う」と一部報道されたことからカナダドル・メキシコペソが急落、USD/CADは1.2573まで上昇した。しかしその後トランプ大統領のNAFTAに対する姿勢は変わらないとの情報がホワイトハウスから伝わるとカナダドルはやや下げを縮めた。

17日、カナダ中銀は良好な経済や力強い労働市場を理由に市場の予想通り政策金利を0.25%引き上げ1.25%とした。しかし同時発表の声明文がNAFTA交渉の不透明感が重く押し掛かると今後の利上げペースに対して慎重な姿勢を示すものであったため、一時的にカナダドルが売られることとなった。USD/CADは一時1.2521までカナダドルが売られるも、その後は1.24台半ばへと再び値を戻した。

20日、米国の暫定予算が期限切れで失効し、一部の政府機関が閉鎖されたが、短期のつなぎ予算成立への見通しから為替への影響は限定的だった。そして22日、米上下両院は2月8日までの暫定予算案を可決、政府機関閉鎖が3日ぶりに解除された。

24日はムニューシン米財務長官が「ドル安は貿易にとって良いこと」と述べたことなどがドル売り材料となりUSDドルが下落、1.2320までUSDドル安が進んだ。しかしその後、トランプ大統領が「最終的に強いドルが望ましい」と正反対の発言をしたためにドルは反発、25日、1.2287までUSDドル安が進んでいたUSD/CADは1.2390まで戻すこととなった。

26日のカナダ12月消費者物価指数は予想通りの前年比+1.9%という結果で、11月の同+2.1%から減速した。しかしコア数値は11月の同+1.5%からやや上昇し同+1.6%と堅調な結果であったためにこの日カナダドルは1.2293まで上昇した。

## 今月の見通し

米連邦準備制度理事会(FRB)が30～31日に開催する連邦公開市場委員会(FOMC)では政策金利の据え置き決定が大半の予想となっている。注目は同時発表の声明文に集まっており、3月会合での利上げに対しタカ派寄りの内容であった場合、これを機にドルを買い戻す動きが広がる可能性が考えられる。

カナダ経済は力強い雇用データを始め概ね堅調な成長を継続しているが、カナダの貿易において重要なNAFTA交渉は29日に終了した第6回交渉にて一定の進展があったとした一方で依然として行く先の不透明感が漂っている。10日の報道でカナダドル・メキシコペソが急落したことから分かるようにNAFTA交渉における米国の動きには注意が必要。1月31日に発表されるカナダ11月国内総生産(GDP)は、10月の前月比0.0%からやや上昇の同+0.4%と予想されるが、もしも予想を大きく超える結果であれば短期的に更にカナダドルを押し上げる材料となるだろう。

1月、原油価格(WTI)は先月から緩やかに上昇、29日時点では3年ぶりの高値となる65ドル台で取引されている。上昇期待ムードが続くにある原油(WTI)だが、今後更に価格が上昇すると米シェールオイルの生産の活発化が予想されるために、上値は重い。もし1バレル70ドル台を突破してもそれを長期維持することは難しいと考える。ゆえに今後原油価格がカナダ経済に与える影響は限定的か。

## 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で今流行っていること』

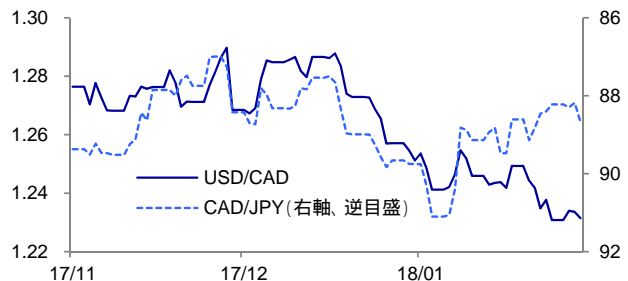
もしかすると既に流行っていないのかもしれないのですが、トロントでは近年チーズケーキ専門店が次々とオープンしており、それぞれの店の前では連日行列が出来ています。主に流行ってるのは“日本風チーズケーキ”で、ここではふわふわ触感の特徴のペイクドチーズケーキのことを指します。美味しいかと聞かれると実はそんなに感動しない素朴な味なのですが、NYスタイルの濃厚チーズケーキが主流の北米では新鮮なのでしょう。とはいえ、行列に並んでいるのはアジア人が大半なので、この行列はむしろ懐かしい味を求める人達によるものなのかもしれません。

他にも“日本のチーズケーキ”を謳い、進出しているお店がありますが、そこのチーズケーキは甘い茶碗蒸しのようであまりチーズの味がせず、個人的にはイマイチでした。こちらは最初は行列していましたが、オープンから3か月くらいで閑散とし始めています。さて、このお店はチーズケーキ戦争を生き残れるのか…!

“日本風チーズケーキ”人気のなか、昨秋にトロント最大級のモール、Yorkdaleにアメリカ系チェーンレストラン「チーズケーキファクトリー」がカナダ第一号店としてオープンしました。すると今度は濃厚なチーズケーキを求める人で行列が出来ました。私はどちらかというと濃厚なチーズケーキが好きなで足を運びたいなと思っていますが、行列に並ぶのが大嫌いなのできつとあと2年くらいは行かないと思います。その頃にはチーズケーキブームも終わりに次に移っているはず…。

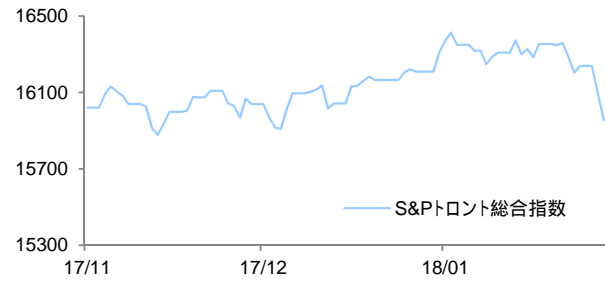
## 為替の動き

(資料) ブルームバーク



## 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



## 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/5	雇用ネット変化率	12月	2000人	7.86万人	7.95万人
1/5	失業率	12月	6.0%	5.7%	5.9%
1/17	カナダ政策金利		1.25%	1.25%	1.00%
1/19	製造業売上高(前月比)	11月	2.00%	3.40%	-0.40%
1/22	卸売上高	11月	1.20%	0.7%	1.50%
1/25	小売売上高(前月比)	11月	0.80%	0.20%	1.50%
1/26	消費者物価指数(前月比)	12月	-0.30%	-0.40%	-0.30%
1/26	消費者物価指数コア(前年比)	12月		1.60%	1.50%
1/31	GDP(前月比)	11月	0.40%	0.40%	0.0%

(資料) ブルームバーク

## 韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW	1055	~	1090
KRW/JPY	9.90	~	10.42
JPY/KRW	9.60	~	10.10

(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

ソウル資金室 下山 泰典

### 先月の為替相場

先月のドル/ウォン相場はもみ合い推移となった。年初のドル/ウォン相場は1066.00でオープン。昨年末には持ちこたえた1070レベルをオープンから割り込み、1060レベルを目指して下落。リスクセンチメントが好調であり、外国人投資家の資金が韓国株式市場に流れ込んでいること等も背景と見られる。同日のうちに1061.20まで下落したが、その後は一旦反発。しかし、翌週8日に節目として意識されていた1060を割り込み1058.80まで下落すると、急速にドル買い/ウォン売りが持ち込まれ、同日中に1069.90まで急騰。1060が一旦サポートラインとして意識されたのだろう、その後11日には今月の高値となる1072.00まで上昇した。しかし、同日の海外時間にECB理事会の議事要旨の内容が想定よりもタカ派的と捉えられユーロ買い/ドル売りが進んだ結果、市場全体にドル売りが波及するとドル/ウォンのNDF相場が下落。前日のNDF相場の下落を受けて、12日には大幅にウォン高の水準でオープン。その流れのまま、15日には再び1060割れを示現した。18日には韓国中銀の金融通貨委員会が開催され、政策金利は市場予想どおり据え置かれた。しかし、CPIの見通しが引き下げられ、また利上げに関しては確認すべき項目が複数あるとの慎重な発言も聞かれたことから、全体的な内容はハト派的と捉えられ、ウォン売りから1071.80まで上昇した。その後は概ね1065-1073のレンジ内でもみ合っていたが、24日の海外時間、ダボス会議でムニューシン米財務長官が「ドル安は米国にとって望ましい」との旨発言したことで全般的にドル売りとなり、25日のオンショア市場では今月の安値となる1057.90まで下落。しかし、同日海外時間にはトランプ大統領から「強いドルが望ましい」との発言があったことでNDF市場が持ち直す、26日は1060より上の水準で推移した。また29日海外時間にドル買いが強まったこと等を受けて、30日のオンショア市場でドル/ウォンは上昇し、31日には今月の高値となる1074.00まで上昇した。しかし、同日に実需筋のウォン買い等により引けにかけて下落し、1067.90でクローズ。

### 今月の見通し

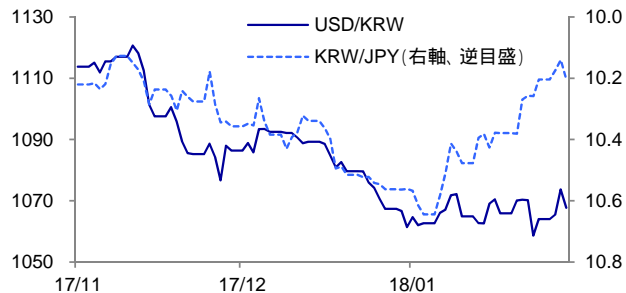
今月のドル/ウォン相場は底堅い展開を予想する。これまではリスクセンチメントの改善やドル高の修正、昨年10月以降急速に高まったBOKによる利上げ観測や実際の利上げ、年末の実需を背景としたウォン買いなどからドル/ウォンは大きく下落してきた。しかし、これらの材料の多くはやや一服感が見られているように感じている。リスクセンチメント自体は引き続き堅調との認識だが、ドルインデックスでみるドルの割高間は相応に修正されており、BOKの利上げ観測も一旦は後退している印象。経常黒字等を背景としたウォン買い圧力は常時存在するだろうが、韓国の年度末である12月末対比で考えればやや弱まっているといえよう。リーマンショック後のチャートで見ても1050は節目と捉えられうることや、先月初旬には1060近辺で一度大きく跳ね返されていること等を考えれば、投機筋が足元の水準から一段とウォン買いポジションを構築するかはやや疑問。利益確定を含むポジション調整から一旦はドル買い/ウォン売りの流れになりやすいのではないかと。また、2月は韓国では旧正月を迎える月で、そもそも動意自体が失われやすいと思われる。休みに入る企業が多い中で、実需のウォン買い圧力が後退しうのほか、足元まで進んだドル安の自律的な調整(反発)もあいまって、ドル/ウォンをサポートしそうだ。懸念すべき材料としては、既に直近で複数回1050台まで下落している中、その後反発が困難になる可能性や、BOKによる利上げムードが急速に高まるといったシナリオだろうか。リスクシナリオも複数考えられるが、上記を勘案し今月のドル/ウォン相場は底堅い展開を予想したい。

### 今月のつばやき(現地からの声)

『当地で今流行っていること』  
ベンチコート〜五輪開催国！全国民が選手にみえるかも?!〜  
最近街を歩いていると、性別・年齢を問わず選手用のベンチコート(ロングダウン)姿の人々をよく目にする。いや、むしろ普通の服装であれば外国人と思うほど、膝下までの丈の長いダウンコートが大流行だ。某百貨店が平昌五輪の公式グッズとして販売した「平昌ロングダウン」は、安価と高品質で人気を集め、販売前日から数千人が並び、3万着がすぐ売り切れたという。従来からベンチコートを販売してきたスポーツウェアブランド達もこの機を逃さず、彼らの株価が上昇したとの記事もある。中高生たちは「私だけ持っていないよ〜」と親にねだって、次々とロングダウンを手に入れているらしい。自分一人だけ持っていないと言う子ばかりだと、実はクラスの誰も持っていないのだろう、と思いながら、私も結局好奇心に勝てず「ロングダウン族」の一人、弟のそれを借りてみた(笑)  
第一印象は、あ・た・た・か・い！マイナス12-20℃のソウルの寒さでも問題なく耐えられる。美的要素としては、正直、カジュアルも、制服も、出社用のスーツにも全く似合わない。それでも、スタイルを諦めてベンチコートを着るのだ。着心地も案外良く、1時間も着るとまるで布団を巻いて歩いているような感じの虜になる(笑)ロングダウン族は、お洒落した日、ラフな日に問わず、「ロングダウンならではの」スタイルを演出している。  
五輪で訪韓する外国人が見れば、全国民が五輪に出場する選手に思われるかもしれない。でも、彼らも一時間も着ればベンチコートに熱狂する韓国人の気持ちが分かるだろう。こうやってベンチコートを頑張って宣伝したものの、来年はまた新しいダウンが流行るかもとのことで、私は今年の購入はやめることにした(笑) (Jiwon Yoo)

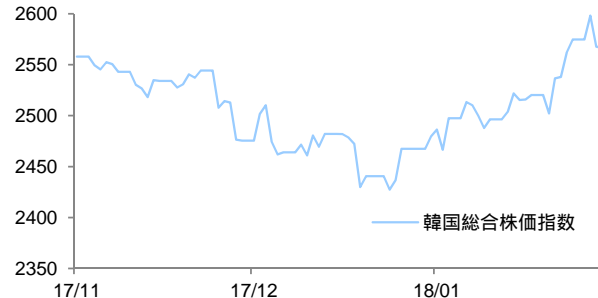
### 為替の動き

(資料) ブルームバーク



### 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/5	経常収支	11月	-	\$7427.6M	\$5715.5M
1/10	失業率	12月	3.7%	3.6%	3.7%
1/18	BOK金融通貨委員会	-	1.50%	1.50%	1.50%
1/25	GDP(前年比/速報値)	4Q	3.4%	3.0%	3.8%
1/31	鉱工業生産(前年比)	12月	-1.5%	-6.0%	-1.7%

(資料) ブルームバーク

## 台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 28.50 ~ 30.00  
TWD/JPY 3.65 ~ 3.85

台北資金室 三浦 勇二

## 先月の為替相場

1月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高。

月初のドル/台湾ドルは、輸出企業の実需のドル売り台湾ドル買いフローなどから29.755と、前月末クローズの29.848から値を下げてオープン。台湾の株式市場への外国人投資家の資金流入も続く中、ドル売り台湾ドル買い優勢の展開が続き、1/8には一時29.440と、2013年11月以来の安値をつける場面もみられた。

その後、月半ばにかけては、株式市場への海外資金流入の勢いが和らいだことに加え、米株高などを背景に米金利が上昇し、ドル/台湾ドルは29.5台を中心とした底堅い推移が継続した。

月後半に入ると、1/15から11営業日連続で外国人投資家が株式を買い越すなど、再び株式市場への資金流入が活発となると、1/19には29.5ちょうどを割り込み、台湾ドル高進行のスピードが加速。米国が太陽電池パネルや洗濯機にセーフガード（緊急輸入制限）を発動するとの報道を受けて通商摩擦への懸念が強まったことや、ダボス会議においてムニューシン米財務長官が「ドル安は良いことだ。貿易や各種機会に関わるからだ。」と、ドル安を容認する発言を行ったことなどから、ドルインデックスが軟調に推移したこともドル売り台湾ドル買い材料となり、1/25には29.035と、2013年1月以来となる安値をつける展開となった。

その後、同じくダボス会議にて、トランプ米大統領が「ドルはますます強くなるだろう。最終的に強いドルを望んでいる。」と、ドル高容認発言を行うも、月末にかけて輸出企業のドル売りも増える中、ドル/台湾ドルは上値の重い推移が続いた。

## 今月の見通し

2月のドル/台湾ドル相場は、台湾ドル高地合いの継続を見込む。

1月に発表された台湾の経済指標をみると、12月の輸出額が前年比+14.80%と15か月連続でのプラス成長を記録。スマートフォン向け電子部品などの出荷が好調で、12月の輸出額+295.1億ドルは単月ベースで過去最高を更新。2017年通年でみても、前年比+13.20%増の+3,173億ドルと、2014年に次ぐ高水準となっている。貿易収支についても+61.3億ドルの黒字と高水準を維持。また、12月の消費者物価指数(CPI)では、前年比+1.21%と前月の同+0.34%から大きく物価の伸びが加速した。しかしながら、生鮮食品やエネルギー価格の上昇が大きく影響しており、コアCPIでは、前年比+1.57%と前月(同+1.30%)からの伸びは0.27%に留まっている。

2月は台湾の株式市場における外国人投資家の資金の動向や、米国の政治動向、経済指標が注目される。

台湾の株式市場においては、2017年12月から外国人投資家の資金流入が急速に回復してきており、1月の台湾ドル高に寄与。足元、台湾加権指数が1990年3月以来の高値となっており、高値警戒感の高まり、利益確定売りの増加が懸念されるものの、この上昇トレンドが続けば、海外資金の流入も続き、台湾ドル買い地合いが続くことが想定される。

一方、1月に市場で高まっていた早期金融政策正常化期待は、日欧の金融政策決定会合後に後退する形となっており、トランプ米大統領による一般教書演説後にインフラ投資への期待が高まり、また、物価関連指標が市場予想を上回る結果となれば、2018年の4回の利上げ期待も生じ、ドル高圧力が強まることも予想されるか。

## 今月のつぶやき(現地からの声)

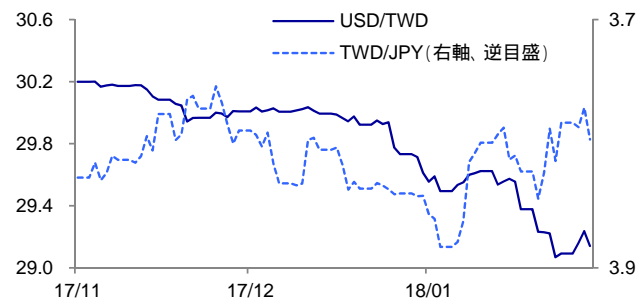
『当地で今流行っていること』

最近、台湾で人気の飲食店の1つで、肉大人(Mr.Meat)というお店があります。その店名の通り、「肉」を売りになっている火鍋のお店で、ニューヨークタイムズで台湾で行くべきレストラン5選にも選ばれたお店です。肉へのこだわりが強く、店内の熟成庫には、イペリコ豚から日本産和牛、台湾産の鴨など、さまざまな種類の肉がディスプレイされています。また、店内のインテリアまでも「肉」をテーマとしていて、牛のネオンサインがあったり、肉のアートが飾ってあったりするほか、肉の写真がプリントしてある特製エコバッグも販売しております。火鍋のスープは、酸味のある酸白菜湯頭スープと辛いスープの2種類から選ぶことができますが、酸白菜湯頭スープのほうが人気があるようです。ちなみに、デザートも肉のような色をしたシャーベットとなっています。

ファストファッションでは、lativというブランドがよく売れているようです。lativは2007年に創業したブランドで、百貨店や路面店はなく、インターネット販売のみのブランドです。シンプルなデザイン、高品質、低価格を売りとしており、台湾版ユニクロとしてもよく紹介されております。

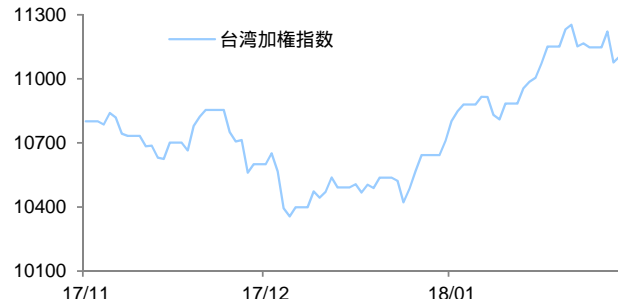
## 為替の動き

(資料) ブルームバーク



## 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



## 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/5	外貨準備高	12月	-	451.50B	450.47B
1/5	消費者物価指数(前年比)	12月	0.85%	1.21%	0.34%
1/8	輸出(前年比)	12月	10.90%	14.80%	14.00%
1/8	輸入(前年比)	12月	8.30%	12.20%	9.00%
1/8	貿易収支	12月	5.80B	6.13B	5.96B
1/22	輸出受注(前年比)	12月	12.20%	17.50%	11.60%
1/22	失業率	12月	3.69%	3.70%	3.69%
1/23	鉱工業生産(前年比)	12月	1.20%	1.20%	1.34%
1/31	GDP速報値(前年比)	Q4	2.50%	3.28%	3.10%

(資料) ブルームバーク



## 香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.8000 ~ 7.8300  
HKD/JPY 13.50 ~ 14.10

香港資金部 Ken Cheung

### 先月の為替相場

#### 【1月の香港ドル直物相場】

ドル／香港ドルは、グローバルに米ドル安が進行する一方で7.8136水準から7.8253水準まで香港ドル安が進行する展開となった。米金利と香港ドル金利の金利差が引き続き拡大している状況や、中国本土からの堅調な香港株への資金流入も相俟って緩やかな香港ドル安が継続した。ドル／香港ドルフォワードの1年物については、年末にかかわる流動性逼迫が徐々に緩和し、香港ドル金利が落ち着きを見せ始めたことで▲500ポイント水準と前月末から下落する展開となった。

#### 【1月の香港ドル金利市場】

年末にかかわる資金需要の高まり等による流動性逼迫の状況から足許は徐々に緩和しつつあり、香港のHIBOR1か月物及び3か月物は0.9%付近及び1.2%付近まで低下した。斯かる中、米金利と香港ドル金利の金利差は、1か月物及び3か月物で0.65%及び0.55%程度まで拡大している状況。中長期金利については、香港ドルスワップ金利の3年物は2.0%水準と小幅な動くに留まり、香港ドル金利のカーブとしてはスティーピングした格好。インターバンク市場の流動性を図る指標である香港金融管理局(HKMA)の当座預金残高は、為替基金短期証券の追加発行は示唆されておらず、約1800億香港ドルと前月とほぼ同水準で推移した。

#### 【1月の香港株式市場】

ハンセン指数は、中国本土からの根強い資金流入から一時33,000水準と最高値を更新する展開となった。底堅い中国経済に対するセンチメントの改善や世界的な米ドル安等、金融機関及び石油関連セクターが同指数上昇を牽引した格好。中国本土(上海)市場からの香港株取引への資金流入は引き続き継続すると見込む。

### 今月の見通し

#### 【2月の香港ドル直物相場】

ドル／香港ドルの取引レンジは、7.800から7.830を想定する。足許FRBによる利上げ見通しに大きな変化はなく緩やかな利上げ継続がメインシナリオとなる中、米金利と香港ドル金利の金利差は引き続き拡大し、米ドル買い／香港ドル売りフローは根強く残存するだろう。加えて、中国本土から香港株市場への資金流入の継続(香港株買い／香港ドル売り)が、香港ドルの下落要因となろう。一方、過度な人民元高の進行から、人民元売り／香港ドル買いのフローに転じる可能性も想定される。足許HKMAからの為替基金短期証券の追加発行の動きは見られていないが、同発行の再開等より一時的に相場が振られる展開には要留意したい。

#### 【2月の香港ドル金利市場】

年末にかけての資金需要が徐々に落ち着きを見せ始める展開に、足許香港ドル金利は安定した推移となっている。一方で、旧正月にかかわる資金調達ニーズや新規株式発行に伴う一時的な流動性逼迫等から、今後香港ドル金利は短期ゾーンを中心に再び上昇基調を辿るだろう。中長期的に見れば、FRBによる緩やかな利上げ継続による米金利上昇に追随する格好で、香港ドル金利についても徐々に上昇する展開を想定する。

### 今月のつぶやき(現地からの声)

#### 『当地で今流行っていること』

香港という街には、様々な人種が薙めき合っていることから、バラエティーに富んだ料理の数々があります。

”フードパラダイス”と言っても過言ではない香港食文化ですが、流行りはどんどん変わっていきます。

最近人気のある料理は、「スチーム・シーフード・ホットポッド」。まずは、蟹・海老・牡蠣・貝類・鮮魚などなどの海鮮品を下に穴の開いた容器に入れ、薬上の蓋をかぶせて下から蒸気で蒸していきます。

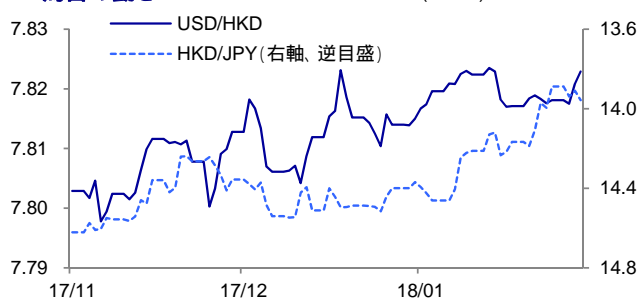
海鮮品自体もちろん美味なのですが、最後の締めとして蒸した海鮮品から穴を抜けて下に落ちたダシで雑炊を作って締めるという、何とも贅沢な一品を楽しむことができます。

もちろん、海鮮品以外にも肉類や野菜を混ぜてオリジナルなホットポッドを作ることも出来、香港人含め日本人・欧米人にも人気のある料理になっています。

ただし、おいしい雑炊を作るにはたくさんのダシを入れた方が良いため、大人数で行くことをお勧めします！

### 為替の動き

(資料) ブルームバーク



### 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/3	小売売上高(価格、前年比)	11月	4.20%	7.50%	3.90%
1/3	小売売上高(数量、前年比)	11月	3.90%	6.90%	3.60%
1/4	日経香港PMI	12月	-	51.5	50.7
1/5	外貨準備高	12月	-	\$431.3b	\$422.1b
1/18	失業率(季調済)	12月	3.00%	2.90%	3.00%
1/23	CPIコンボジット(前年比)	12月	1.70%	1.70%	1.60%
1/25	輸出(前年比)	12月	7.30%	6.00%	7.80%
1/25	輸入(前年比)	12月	7.20%	9.00%	8.60%
1/25	貿易収支(HKD)	12月	-45.9b	-59.9b	-39.7b
1/31	財政収支(HKD)	12月	-	53.4b	22.5b

## 中国人民元相場

予想レンジ:	USD/CNY	6.2000	~	6.6000
	CNY/JPY	16.36	~	18.39
	100JPY/CNY	5.6400	~	6.1100

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 馬場 一樹

### 先月の為替相場

#### 【為替相場】

1月のドル/人民元相場は、海外市場のドル安を受けて大幅にドル安人民元高が進行。  
 昨年末、人民元高が大きく進んだ流れを引き継ぎ、ドル人民元は年初から6.50割れの水準でスタート。その後、暫く6.50近辺の水準で横ばいが続いた後、9日には中国人民銀行が昨年5月に導入していた人民元仲値算出時の構成要素の一つである「反循環的調整要因」の停止を決定。足元の中国経済が安定していること、元安見通しが後退していること等を背景に今回の措置を取ったと見られている。昨年9月にも6.50を割れた時点で規制を緩和した経緯もあり、今回も同水準を割れたタイミングでの対応となった。その後6.53近辺までドル高人民元安が進んだものの、中国が米国債購入を減額する可能性があるとの報道や、タカ派なECB議事録・ドイツの大連立交渉が進展を見せたこと等を受けたユーロ高を背景にドル安が大幅に進行。ドル人民元もドル安人民元高が進み、一時6.40割れまで水準を切り下げた。18日発表の2017年度中国GDPは+6.9%と10年ぶりに前年比加速、市場予想も上回る結果となったが、当局による事前のアナウンス等もあり、相場への影響は限定的だった。その後、ムニューシン米財務長官によるドル安容認発言、ECB理事会ではユーロ高をけん制する発言が見られなかったこと等を背景に一段とドル安が進行。月末にかけては6.28台までドル安人民元高が進行した。

#### 【金利相場】

人民元金利は、月初は大幅に金利低下が進み、その後一旦は金利上昇地合となるも、流動性が潤沢な中、再び短期ゾーン中心に金利低下。月初、人民銀行による公開市場操作は見送りが続いていたものの、年末に伴う資金調達ニーズの剥落から新年入り後の資金市場は緩和地合いが継続。人民銀行が春節期間中の準備預金率の実質引き下げを発表したことも好感され、マネー金利は連日大幅に低下した。しかし、公開市場操作における連日の資金吸収もあり、中資系大手行からの資金放出も徐々に減少し、次第に資金金利も短期ゾーン中心に徐々に上昇に転じた。月後半にかけては、人民銀行による連日の資金供給もあり市場流動性が維持される中、中資系大手行からの資金供給も見られたことから落ち着いた展開となり、資金金利は短期ゾーン中心に低下した。

### 今月の見通し

#### 【為替相場】

2月のドル/人民元相場は、引き続き海外市場の動きに振られる展開を予想。  
 米国では金融政策正常化や強い株の動きもあり米金利は上昇しているが、米金利の動きとドルの動きは逆行しており、むしろECBによる金融正常化観測やドイツの政治的懸念の後退等でユーロ高が進んでいることにより大きくドル安が進んでいる状況。ドル人民元は、中国での材料が比較的乏しい中、海外市場のドルの動き次第で上下すると思われ、引き続き水準を大きく切り上げている為替ユーロやその他海外通貨の値動きの落ち着きどころを探る展開か。中国は2月15日から21日まで春節期間に入るため、春節前のポジション調整等の動きには警戒。  
 中期的には、引き続き当局は過剰投資・過剰生産能力の削減、金融システムリスク防止に向けた債務圧縮等、政策を強化していく見通しであり、今後打ち出されると見られる構造改革や金融引き締め政策により中国の経済成長鈍化が懸念されることから、ドル人民元は安定ながらも緩やかな人民元安を予想。

#### 【金利市場】

足元流動性が維持される中、金利の水準も一旦は落ち着いているものの、2月中旬の春節前は春節越えの資金調達ニーズが高まることが想定され、金利上昇圧力が強まる展開か。中長期的にも、当局による金融監督強化の動きやレバレッジ解消を企図した規制強化・引き締めへの警戒感は根強く、金利上昇圧力は継続するものと予想。

### 今月のつぶやき(現地からの声)

#### 『当地で今流行っていること』

中国はアプリ社会。基本的に流行のものはほとんどアプリ関連が多いと思います。日常生活に欠かせないのは、決済アプリの「支付宝(アリペイ)」、連絡および決済、ゲーム等の総合アプリ「微信(Wechat)」、配車アプリ「DiDi」、買い物アプリ「淘宝」、レストラン評価アプリ「大众点评」、旅行関係(航空券、列車、ホテル等)アプリ「Ctrip」等々、まだまだ紹介しきれないものが沢山ありますが、基本的に日常生活のほぼ全ての行動がアプリで完結出来るようになっていきます。そこで、私の周辺で最近流行っているアプリを伺っていると、今人気なのは以下のアプリだそうです。

#### 【ゲーム】

「跳一跳」: Wechat内のアプリ。画面のタッチ時間を調整して箱から箱に飛び移るという単純なゲーム。友達とランキングで勝負出来るようになっており、競争心をかき立てられる。

「頭脳王者」: こちらもWechat内アプリ。友達、もしくはWechat利用者の誰かとクイズ勝負が出来る。こちらもランキングが毎回出るため、挑戦意欲が高まる。  
 「旅かえる」: 日本発のかえる育成アプリ。旅好きなかえるを旅に出し、その帰りを待つというゲームだそう。

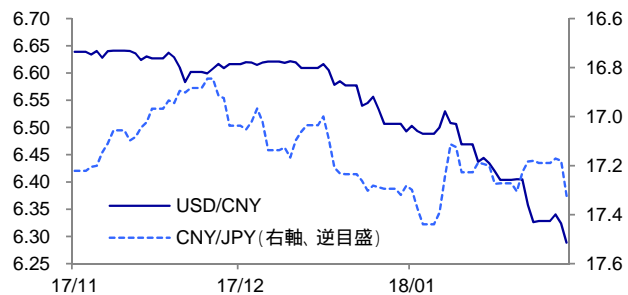
#### 【生活】

「盒马」: スーパーで買い物をし持ってきてくれるアプリ。アプリ内で食材を選べば、近くのスーパーで買って家まで届けてくれる。それだけではなく、食材を切ったりゆでたり、ある程度の下準備も依頼したら調理してもらって届けてくれる。

中国では使いやすいアプリがどんどん開発され、そして勢いよく広がっていきます。流行り廃りの回転がとても早いので、そのスピードに追いつくだけでも一苦労です。

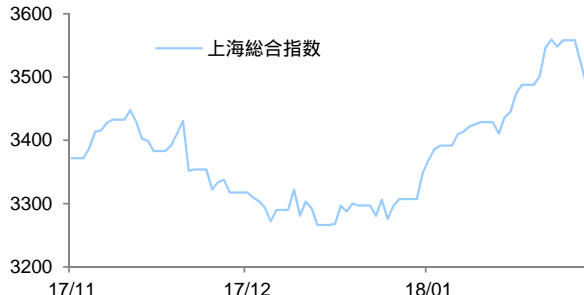
### 為替の動き

(資料) ブルームバーク



### 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/10	CPI(前年比)	12月	1.9%	1.8%	1.7%
1/10	PPI(前年比)	12月	4.8%	4.9%	5.8%
1/12	貿易収支(RMB建)	12月	235.2B	362.0B	255.4B
1/12	輸出(RMB建)(前年比)	12月	6.7%	7.4%	9.5%
1/12	輸入(RMB建)(前年比)	12月	11.8%	0.9%	15.4%

(資料) ブルームバーク



## シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.2800 ~ 1.3300  
SGD/JPY 82.50 ~ 85.00

アジア・オセアニア資金部 鈴木 教子

## 先月の為替相場

1月のシンガポールドル(SGD)相場は、全般的なドル安地合いに沿ってSGDが大幅上昇し、約3年ぶり高値を更新した。

月初2日に発表されたシンガポール10～12月期GDP速報が予想を大幅に上回る前期比+2.8%となったことを受けてSGDは1.33台後半から1.32台後半へ急伸して始まった。その後も小幅の値動きながら堅調地合いを維持し、1.32台半ば近辺で越週した。5日の米12月雇用統計は、非農業部門雇用者数が予想を下回るも、平均時給が前月上昇し、相場への影響は限定的だった。

第2週は急ピッチで進んだドル安の調整で週前半はSGDが軟調推移した。9日に中国人民銀行が人民元基準値の算出におけるカウンターシクリカル要因を中立化(人民元安に作用)したこともSGD売り要因となった。しかし、11日に欧州中銀理事会議事録(12月分)の中で、2018年の早い時期に金融政策やフォワードガイダンスを見直す可能性があるとの記述があったことや、12日に独連立政権樹立に向けて前進が見られたことがきっかけでユーロが急上昇すると、SGDも連れ高となり、週末には1.32台前半をつけた。

第3週は、多くのアジア通貨が数年来の高値を更新し、介入警戒感が強まったことからアジア通貨高の流れが一服。その中でSGDも1.32台前半を中心に持ち合いとなった。

第4週は再びドル安の流れとなった。23日は米国が通商法201条に基づく緊急輸入制限を発動するとの報道を受けて保護主義の高まりを警戒してドル売りが強まった。更に24日はムニューシン米財務長官が「弱いドルは米国にとって良いこと」と述べたことからドルが急落。この流れの中でSGDは25日に1.30台前半まで急伸して、3年1か月ぶり高値をつけた。その後トランプ米大統領が「最終的には強いドルを望む」とドル安の動きを牽制すると、1.30台後半へ戻し、同水準での小動きが続いている。

## 今月の見通し

2月のシンガポールドル(SGD)相場は、SGD高基調継続を予想するも、波乱含みか。

昨年12月に米国税制改革法案が成立し、FOMCでも予想通り利上げを実施したが、相場には織り込み済みで、1月には更にドル売りの流れが加速した。世界的な株式市場の活況に見られる様に、投資家のリスク志向は高く、好調なアジア経済を背景とした資金流入がアジア通貨高を支えている。ドル安の流れは主要通貨、新興国通貨を含む広い範囲に亘っており、勢いが感じられる。2月もファンダメンタルズに支えられたアジア通貨高トレンドが継続する可能性が高いと見る。

シンガポール経済も、10～12月期GDPが速報値ベースで前年比+3.1%、前期比+2.8%と予想以上に好調で、シンガポール金融管理局が今年中にSGD高誘導を再開するとの見方を裏付けるものだった。低水準で推移してきたインフレに上昇の兆しが見えれば、その期待が更に高まることになり、潜在的なSGD高要因である。

ただ、昨年末からのSGD高のスピードが急だったことから利食いが出る可能性も高く一本調子のSGD高とはならなさそう。特に16、17日の旧正月前はその可能性が高い。他方、旧正月休みで介入が不在との思惑から短期的なSGD買い仕掛けが出る可能性も排除できず、参加者が少ない旧正月前後は波乱含みである。水準的には、心理的な抵抗線である1.30を抜けるとテクニカル的に1.27近辺まで強い抵抗線がなく、SGD高方向に振れた場合は荒い値動きが予想される。一方、昨年末のクローズ水準である1.33台後半にかけては、買い遅れ筋による戻り待ちの買いが控えていると思われ、SGD下落局面では比較的緩やかな相場展開となりそう。

注目材料は、国外要因では米1月雇用統計(2日)、国内要因では1月輸出統計(15日)、10～12月期GDP確報値(16～23日頃)、1月消費者物価指数(CPI)(23日)。

## 今月のつづやき(現地からの声)

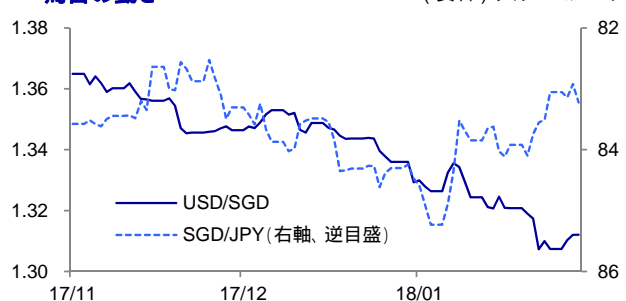
『当地で今流行っていること』

常夏のシンガポール。当然、冬も無いのですが、この時期はインフルエンザが流行しています。やはり色々な国々と人の往来があるせいでしょうか、日本でいう冬のこの季節に毎年、流行しているようです。ちなみに、どこから持ち込まれたであろうインフルエンザウイルスがシンガポールで少し形を変えたようで、“A型シンガポール”と命名された株もあります。毎年、日本で流行しそうな株を選んで、インフルエンザワクチンの内容が決まりますが、2010年から選ばれ続けてきたA型カリフォルニアを押し付け、今シーズンから“A型シンガポール”が採用されました！シンガポール発祥で、日本でも流行する最先端なものと言えます。

その他流行と言えば、ドンキホーテが17年12月にオープンし、流行しております。品数が多く、値段も手ごろということで、オープン直後に行った際は、とんでもなく混雑しておりました。その後、売り切れ続出で品薄となるほどでした。やはり手頃な値段であれば、種類も豊富な日本の物は強い競争力があるんだと実感した次第です。その他、まさに”今流行”という訳では無いですが、ウーバー、グラブ等の自動車配車サービス、自転車シェアなど、新しいものの普及が早く、また1年後には急激に普及しているサービスがあるんだろうと楽しみにしています。(辻野順治)

## 為替の動き

(資料) ブルームバーク



## 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



## 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	GDP (前年比)	4Q	2.6%	3.1%	5.4%
1/2	購買部景気指数	12月	-	52.8	52.9
12/4	電子産業指数	12月	-	53.2	53.5
1/12	小売売上高 (前年比)	11月	1.1%	5.3%	-0.2%
1/17	非石油輸出 (前年比)	12月	8.6%	3.1%	9.1%
1/23	CPI (前年比)	12月	0.5%	0.4%	0.6%
1/26	鉱工業生産 (前年比)	12月	0.8%	-3.9%	5.6%

## タイパーツ相場

予想レンジ: USD/THB 30.80 ~ 31.80  
THB/JPY 3.43 ~ 3.51

バンコック資金室 井上 由貴

### 先月の為替相場

○ドルパーツは続落

上旬、ドルパーツは上値重く推移。年明け1日以降、北朝鮮リスクが意識されてドル円中心にドル売り優勢となると、ドルパーツもオフショアでドル売りが加速、32.40台前半まで下落した。3日にタイのオンショアが再開すると、SETが史上最高値を更新し、債券市場、株式市場ともに外国人投資家からの資金流入が優勢となり、ドルパーツは昨年の安値を割り込み32.20台前半まで下落。3日に公表された12月消費者物価指数は市場予想を下回る前年比0.78%となったものの反応は限定的だった。その後も外国人投資家からの資金流入が続き、ドルパーツは上値の重い展開。10日には「一部の中国高官が米国債の購入減額ないし停止を勧告した」との報道を受けてグローバルにドルが売られる展開となり、タイパーツも32.00台まで急落する展開となった。

中旬、節目の32.00を割り込んだ後足踏み。海外からの資金フローを背景に2014年8月以来の32.00割れを示現。31.90パーツまで下落。その後、米国で暫定予算案承認を巡り米政府機関の閉鎖懸念が高まるも、ドルパーツの反応は薄く、31.90台を中心のレンジ推移。タイ中銀は今年に入り上昇が加速しているパーツ相場について、「パーツには投機的な動きが見られる」とメディアに語ると共に、パーツ高によるビジネスへのインパクトを抑制する方針を示した。18日には、ソムキット副首相が「昨今のドル安の地合や海外投資資金の流入等を背景としたパーツ高をモニターするよう、タイ中銀へ要請した」、19日にはプラユット首相主導で足元のパーツ高に関する緊急会議が行われたとの報道があったが、目新しい材料がなく市場の反応は限定的。

下旬、米国のドル安容認発言を受けて下値模索の展開。22日に商務省が発表した12月貿易統計で輸出が前年比8.6%となり、2017年通年では前年比9.9%の高い伸びになったことが判明するとパーツ買い優勢の展開となり31.80台前半まで下落。23日には、ウィラタイ中銀総裁がパーツについて「過度な変動を抑制する場合のみ市場に介入する」と発言したことを受けて、タイ中銀は当面市場に介入しないとの思惑が拡がり、31.70台まで下落した。24日には、ムニューシン米財務長官がドル安を容認するような発言をしたことを受けてドル安が進行し、ドルパーツは31.50台前半まで急落。その後、トランプ米大統領は「強いドルが望ましい」とし前日のムニューシン米財務長官の発言の火消しに走るもドル安基調は変わらず、ドルパーツは31.30台まで下落している。

### 今月の見通し

○ドルパーツは引き続き上値の重い展開を予想。

1月に発表された経済指標は引き続き好調であった。商務省が発表した貿易統計では輸出が2017年通年で前年比9.9%の伸び、金額ベースでは過去最高額を記録した。貿易、観光収入を背景としたタイ経済の拡大は引き続き継続し、パーツ高要因となることが予想される。今月は2017年第4四半期GDPが発表される。中銀や財務省も2017年通年で前年比3.8~3.9%程度の成長率を予想しており、2016年の年間3.2%成長から大きく加速する見込み。好調なタイ経済先行き見通しを確認すれば、一段のパーツ高圧力となる。好調なタイ経済を反映したパーツ高は、輸出競争力の低下という観点で経済界をはじめとして懸念の声が上っており、タイ中銀による為替介入が期待されるところである。しかし、ソムキット副首相は今年に入りタイ政府とタイ中銀による為替介入政策を否定する発言を行っており、ウィラタイ中銀総裁も「貿易を有利にするために介入はしない」と発言しており、タイ中銀はパーツ高を止めるための大規模なドル買い介入はしづらくなっている。中銀は国内の金融機関で異常な投機的パーツ買いのフローが確認されたため個別に検査を行うと発表している。具体的にどのような取引であるかは明示されておらず、ある種の口先介入ともとれるが、あくまでパーツ高基調に変化は見られない。

ただ、1月以降のパーツ高進行ペースはあまりに速すぎるという指摘もある。2017年通年で10%程度の上昇であったにも関わらず、1月は1か月で4%の上昇を見せており、ポジションは相当偏っていると考えられる。1月はドルパーツに限らず、ムニューシン米財務長官によるドル安容認発言等、グローバルにドル安が進行したが、多少行き過ぎの感も否めず、小幅に反発の可能性もある。ドルパーツ相場に関しては、パーツ高方向を見つつも、ポジション調整をこなしながらパーツ高進行ペースは落ち着くと見ている。

### 今月のつぶやき(現地からの声)

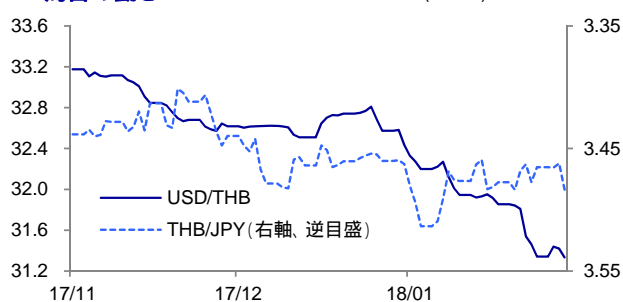
『当地で今流行っていること』

最近、日本のアイドルグループの歌が流行ってます。日本での発売・流行は2013年でしたが、バンコクの姉妹グループがカバー曲を発売し、流行しています。その曲は、「恋するフォーチュンクッキー」。タイ語では「クッキーシエンタイ」。

歌詞はタイ語ですが、サビの「恋するフォーチュンクッキー」「ハートのフォーチュンクッキー」など一部だけ日本語で歌っています。すごくかわいいです。プロモーションビデオでは、小学生の子どもたちやトック・トックやバイタクのお兄さん、ムエタイ選手っぽい人々など、タイを象徴するような(?)人々も登場し、ノリノリでダンスしております。遊園地で多数のエキストラが参加して撮影したという場面もなかなかの盛り上がり。微笑ましくて、かなり良い出来です。YouTubeでの再生回数は本稿執筆時点で2900万回を突破。センターはモバイルちゃん(15歳)。この子がまたかわいいです。このコラムを書くためと言いながら見てるうちに何度もリピートしており、、、ちょっとはまってます。

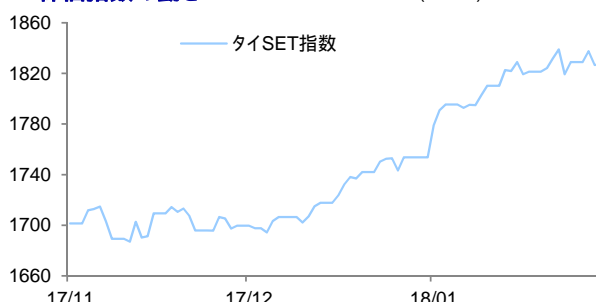
### 為替の動き

(資料) ブルームバーク



### 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



### 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/3	消費者物価指数(前年比)	12月	0.99%	0.78%	0.99%
1/3	CPIコア(前年比)	12月	0.65%	0.62%	0.61%
1/4	消費者景気信頼感	12月	-	66.20	65.20
1/22	輸出(通関ベース/前年比)	12月	7.15%	13.40%	13.40%
1/22	自動車販売台数	12月	-	104,302	78,082
1/31	輸出(前年比)	12月	-	9.30%	12.30%
1/31	貿易収支	12月	-	\$1,544M	\$3,335M
1/31	経常収支	12月	\$3,933M	\$3,856M	\$5,285M

## マレーシアリング相場

予想レンジ: USD/MYR 3.8000 ~ 3.9500  
 MYR/JPY 26.59 ~ 28.94  
 JPY/MYR 3.3600 ~ 3.8000

マレーシアみずほ銀行 山田 輝彦

## 先月の為替相場

1月のリングgitは大きく買い進められる展開となった。

年明け2日のリングgitは昨年末比ほぼ変わらずの4.08ちょうどレベルで寄り付くと、他のアジア通貨も対ドルで堅調な動きを見せたことに合わせ、リングgitも4.02台まで買い進められ、その後も原油価格が上昇したことも手伝って、5日には寄り付き直後に節目と見られていた4ちょうどを2016年8月ぶりにあっさり割り込むと一時は3.99ちょうどを付けた。その後、9日には中国が人民元基準値の算出方法を変更したとの発表に大きく人民元安となる動きに合わせ、リングgitも売られる展開となり、10日には一時4.0150を付けたが、人民元が反発したことでリングgitも4.0030まで値を戻した。11日には一転して中国が米国債購入の減額または停止を検討との報道にドル売り圧力が強まったことを受けて、リングgitは再び買われる展開となり、一時は3.9850を付けた。12日は前日海外時間に発表されたECB議事録がタカ派的と受け止められたことや米経済指標が弱かったことでドル売りとなったことから、リングgitも買い圧力が継続する中、3.97台半ばまで値を戻した。

月半ばに入ってもリングgitの堅調地合いは変わらず、ユーロ高をきっかけにドル安となったことや人民元の対ドル基準値が大幅に人民元高に設定されたこと等を背景に、リングgitは買われる展開となった。19日に米国での暫定予算の執行期限に関連して連邦政府機関閉鎖リスクが警戒され、再びドル売りが強まったことでリングgitは3.9350まで買われた。

月後半も状況は変わらず。米政府機関閉鎖を嫌気したドル売りにも押されややリングgit高に推移、23日にはその政府機関閉鎖解除を好感したドル買戻しにも反動鈍く、25日の金融政策会合での利上げ期待感にじわじわとリングgit高が進行した。24日には前日海外時間に米国が太陽光電池と洗濯機にセーフガードを発動したことによるドル売りにリングgit高は継続、25日も前日海外時間でのムニューシン米財務長官のドル安容認発言でリングgit高が進展する中、金融政策会合で利上げが発表されると更にリングgit高が加速し一時3.8870を付けた。26日も前日のトランプ大統領のドル安牽制発言にも反応鈍く、一時は3.8735を付けた。しかしながらアジア通貨全般で利食いと思われる動きに、リングgitも3.9ちょうどレベルまで値を戻している。

## 今月の見通し

2月のリングgitは引続き堅調地合い維持を予想。

1月に1年半ぶりに中銀は政策金利を3.00%から3.25%へ引上げ、その理由として好調な国内景気を挙げ、金利水準を正常な状態に戻したとしたことから、3月から5月と言われる総選挙、その後のラマダンを考えると、追加利上げがあるとしても年後半以降になるものと思われる。当然のことながら、その間の景気動向、インフレ動向、海外情勢に拠ってではあるが、少なくとも利上げ打ち止め感が出ていない状況を踏まえれば、引続き割安感の残るリングgitは買い進められる可能性が高いのではないかと。但し、1月についても1,000ポイント以上買われていること、旧正月を挟み取引量が落ちることを鑑みれば、値幅は落ち着いたものになるのではないかと。

## 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で今流行っていること』

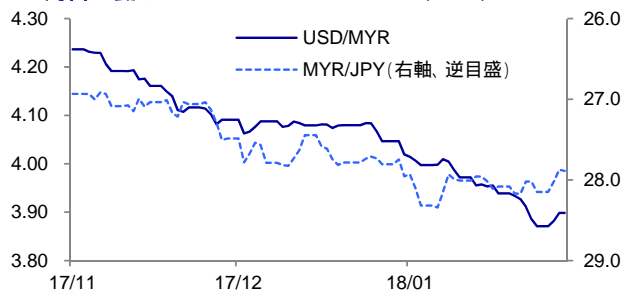
当課のナショナルスタッフに「今、マレーシアで何が流行っているの?」と聞いてみたところ、反応が極めて鈍く「選挙?」(今年5年ぶりの議会総選挙が予定されているため)、「旧正月?」(2月中旬に控えていて、既に年末モードに突入しているからなのでしょう)等、期待している回答は得られませんでした。

ただその中でも確かに流行りというかブームになってきているものが1つありました。「旅行」です。2014年後半以降、売られに売られたリングgitが去年から漸く反転してきたことで海外旅行に行く人が増えているようです。しかも円がもたついてくれていることもあり、日本を行き先として選ぶマレーシア人は増えているようです。

流行に鈍感になってきている私自身、もうちょっとどうにかしないといかんかと反省した今月のつぶやきでした。

## 為替の動き

(資料) ブルームバーク



## 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



## 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/5	輸出(前年比)	11月	14.5%	14.4%	18.7%
1/5	輸入(前年比)	11月	14.8%	15.2%	20.9%
1/5	貿易収支(MYR)	11月	10.9B	9.95B	10.44B
1/11	鉱工業生産(前年比)	11月	4.6%	5.0%	3.4%
1/11	製造業売上(前年比)	11月	-	10.9%	11.0%
1/22	外貨準備高	1/15	-	103.0B	102.4B
1/24	CPI(前年比)	12月	3.5%	3.5%	3.4%
1/25	金融政策会合		3.25%	3.25%	3.00%

(資料) ブルームバーク

## インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 13200 ~ 13600  
 IDR/JPY 0.79 ~ 0.84  
 JPY/IDR 121.00 ~ 126.00

(注)100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 河合 良介

## 先月の為替相場

1月のドルルピアは13265～13555のレンジでの推移となり、昨年末実施されたフィッチによるインドネシア格上げを背景とした旺盛な海外からの資金流入を受けて、下落した。

13540近辺でスタートしたドルルピアは、月初から上記のフィッチによるインドネシア格上げを受けた海外からの資金流入を背景に、4日には13410近辺まで下落した。2日発表されたインドネシア12月CPIは前年同月比+3.61%と市場予想をやや上回ったが、相場への影響は限定的となった。

その後、13400近辺での取引が継続したが、8日発表されたインドネシア12月外貨準備高は前月比+42億ドル増加し、過去最高となる1302億ドルに到達。これがポジティブに捉えられ、ドルルピアは更に下落。15日発表されたインドネシア12月貿易収支は、輸出額が予想比小幅な伸びとなったことから5ヶ月ぶりの赤字となり、一時強含む場面も見られたが、旺盛な海外からの資金流入が継続し、25日には一時13265まで下落した。

この間、海外投資家のインドネシア国債保有残高は、2017年末比+386億ドル増加(約+4.6%)した。

1月26日現在、ドルルピアは、13310近辺での取引となっている(終値ベース)。

18日、インドネシア中銀が開催した定例会合では、市場予想通り4か月連続で政策金利を据え置いた。

## 今月の見通し

今月のドルルピアは、先月に続きフィッチによるインドネシア格上げ、ムーディーズによるインドネシア格上げ期待を材料に年初からの海外からの資金流入が継続・活発化し、ルピア堅調な展開(ドルルピアは下落方向)を予想する。

今月は、毎月発表される経済指標に加え、2017年第4四半期のGDPと経常収支が発表される。

GDPについては、5%が維持されるか、また経常収支については、構成項目である①「サービス収支」②「所得収支」において、①サービス収支は、昨年起きたバリ島火山噴火によるバリ島への外国人観光客の減少によるサービス収支の悪化、②所得収支は、米国金利上昇を受けた対外債務の金利支払い負担増(インドネシア対外債務の約7割が米ドル建て)による所得収支の悪化により、年中盤から緩やかなルピア安を予想しているが、影響が出るのは、まだ先と見ている。

また、インドネシア中銀の金融政策は、海外からの資金流入が続き、ルピアが安定している年前半に1回の利上げを予想しているが、今月は様子見の観点から、5か月連続の据え置きとなる公算が高い。

## 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で今流行っていること』

現在、ジャカルタで「流行っていること」と言えば、ランニングでしょう。

SNSでつながっているインドネシア人の投稿を見ると、マラソン大会に出て、参加者全員の爽やかな笑顔を投稿というのを、良く目にします。

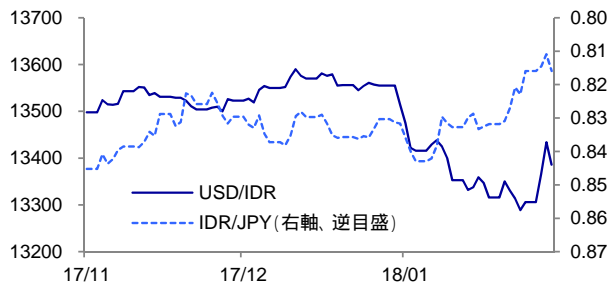
ある社長(この方は、インドネシア人の方を接待する機会が多い)に、「最近ゴルフはどうですか?」などと会話を向けると、「ゴルフ激減、ランニングに誘われることが多いので、接待感覚で走ってますよ。」とのこと。

どうりで飲み屋の集まる日本人街が閑散としているはずです。

インドネシア在住のお客さまと、たまに一緒にゴルフをさせていただく私ですが、接待の流れがゴルフ⇒ランニングに変わってしまったら、全く役に立たないな、と思う今日この頃です。

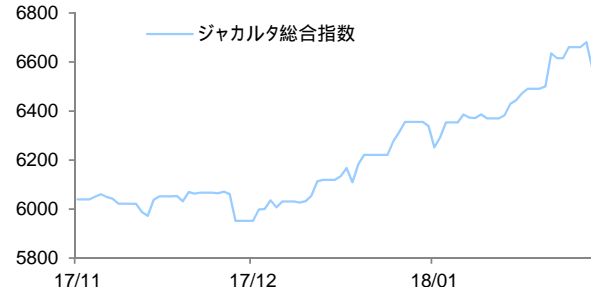
## 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



## 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



## 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/2	CPI(前年同月比)	12月	3.35%	3.61%	3.30%
1/8	外貨準備高(USD B)	12月	-	130.2	126.0
1/15	輸出(前年比)	12月	13.85%	6.93%	13.46%
1/15	貿易収支(USD M)	12月	579	-270	215
1/18	BI 7daysリバースレポ金利		4.25%	4.25%	4.25%



## フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 50.80 ~ 52.00  
PHP/JPY 2.05 ~ 2.15

マニラ支店 樋上 陽一

## 先月の為替相場

年明け(3日)のドルペソ為替相場はアジア通貨の騰勢が年初も続き、年末の終値(1ドル=49.93ペソ)対比で大幅なペソ高の1ドル=49.80ペソで出合った。

3日の米国時間に公表されたFOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨では、米金利の利上げ路線維持と米経済への楽観的な見方が示され、ドルペソ為替相場は一時的にドル買いが強まる場面もあったが、その後はリスクオン相場の様相が強まり、5日には1米ドル=49.705ペソまでペソ高が進んだ。

5日(金)の海外時間に発表された米12月雇用統計は非農業部門雇用者数が市場予想を下回ったものの、ドルの利上げペースが今年2~3回との市場コンセンサスが変わらなかったことで、ドル金利の先高観からドルペソ為替相場においてはドル買い優勢、節目の1米ドル=50ペソ台をあっさり回復。9日には中国人民銀行(PBOC)が人民元仲値の設定方法を変更したことが人民元安を呼び、アジア通貨全体に売り圧力が掛かり、また中国当局が米国債について魅力が乏しいと発言したことで、米10年債金利の上昇でペソ安が進んだ。

10日にフィリピン統計庁から発表された比11月の貿易データ(速報値)は、輸入が過去最大に拡大、一方、輸出は2か月連続で前月割れとなり、貿易赤字が過去最大の37.8億米ドルを記録。米金利上昇と比貿易赤字拡大を材料にペソ売り圧力が継続して1米ドル=50ペソ台半ばへ。

15日に発表された11月の海外在留フィリピン人労働者(OFW・銀行経由のみ)送金は22.6億米ドルとなり、前月の21億ドルから増加、前年同月比2%増となったものの、市場予想(24億米ドル・7.3%)を下回ったことが嫌気された。23日に発表された比2017年のGDP成長率(速報値)は、前年比6.7%(16年から0.2ポイント減速)。17年第4四半期(10~12月)のGDP成長率も前年同期比6.6%で、前期の7.0%から減速。GDP成長率への市場参加者の期待が高かったこともあり、ドルペソ為替相場はペソ売りが優勢となり、1ドル=51ペソ台を回復した。(1月29日現在)

## 今月の見通し

今後のドルペソ為替相場だが、米国の10年債金利が2.7%を越えてきており、根強いドル買い材料となりそう。米国の政策金利が2018年に50~75bp上がった場合、まだまだ米国の10年長期金利の上昇余地はありそう。

比の17年GDP成長率については、左記のとおり、前年比6.7%、17年第4四半期の数字は前年同期比6.6%で、政府が7%を越える成長率を目指しているなかでは冴えない数字と市場では捉えられた。エスベリニャ中銀総裁は、今回のGDP成長率の数字を受け、現状の金融政策で中銀がターゲットとするインフレ目標を十分に達成できると、ハト派なコメント。総括すれば、持続可能で堅調な成長が続いており、ファンダメンタルズをみれば、個人消費や投資は堅調との認識で間違いはなく、ペソの見直し買いがあっても良さそうだが・・・。

一方、貿易統計については、インフラ整備による輸入拡大は避けられず、ITサイクルのピークアウトで輸出の減少が懸念される。貿易赤字の拡大、OFW送金の伸び率鈍化により、小幅ながら改善傾向にあった経常収支が再び悪化に転じるリスクを市場は織り込み始めており、ペソ売り圧力が強まりそうな状況。

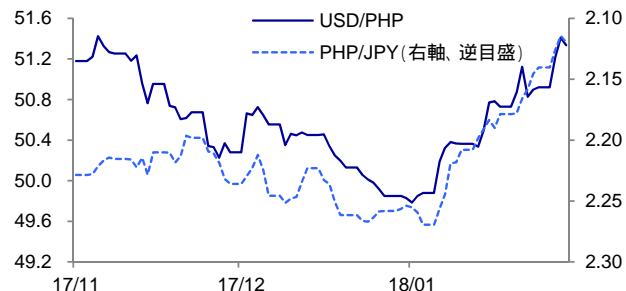
興味深いデータとして、各月の【OFW送金金額 + 比貿易収支】の数字を紹介したい。2015年まではこの数字はプラスだったが、2016年から貿易収支の赤字拡大により、マイナスとなる月がみられ、昨年11月はマイナス15.2億ドルと過去最大になった。これまでは数億ドルのマイナスだったのに対して11月は桁違いのマイナスになったことは興味深い。

ドル高ペソ安のトレンドを変えようとしたら、他通貨とのバランスか。年初からの各通貨の動きをみると世界的なドル売りの流れで多くのアジア通貨が2%前後、対ドルで強含んでいる。一方、ペソは2%超で独歩安。

調整が必要な水準とみることも出来るが、ドルは底固そう。ペソ買材料に乏しい。(1月29日現在)

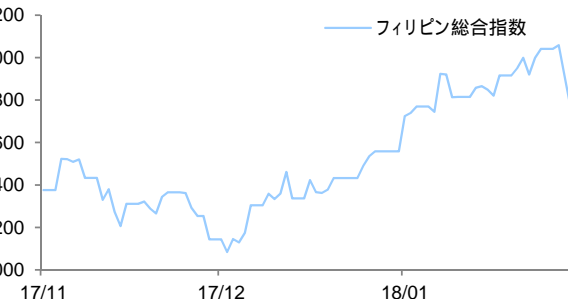
## 為替の動き

(資料) ブルームバーク



## 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



## 先月の注目イベント

発表日 イベント  
上記参照

(資料) ブルームバーク  
期間 予想 結果 前回



## インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 62.80 ~ 65.00  
INR/JPY 1.68 ~ 1.75

アジア・オセアニア資金部 ムンバイ室 田川 順也

## 先月の為替相場

【1月の米ドル/インドルピーは方向感の出ない展開だった】

63.86レベルで2018年の取引を開始。良好な経済指標に買われたシンガポールドル、インドネシアルピア、原油価格が堅調となりマレーシアリングが節目となる4.00割れとなるなど、年始流動性薄い中で全般的なアジア通貨買いが先行するとドル/ルピーも軟調な展開。8日には2015年春以来となる63.26近辺まで下落した。ただ、2週目に入ると中国が人民元の基準値を変更したとのヘッドラインに人民元は売りで反応、アジア通貨も連れ安の展開。加えて16日にインド準備銀行(中央銀行、RBI)の副総裁が国内銀行の債券運用に対する救済措置について否定的な発言をしたことや11月貿易収支にて赤字が拡大していることが確認されるとルピー売りで反応、ドル/ルピーは当月高値である64.09近辺まで急上昇。

ただし、終盤にかけては一段の上値追いつきはならず、また米暫定予算執行後の政府機関閉鎖について懸念される中ドルが軟調となると、ドル/ルピーも63.80を挟んでもみ合う展開。月末にかけてはトランプ米大統領が輸入制限をかけると保護主義警戒からドルが売られる展開、24日執筆時点で63.64レベルの取引となっている。

【1月のインドルピー/日本円は軟調な展開だった】

1月1日取引は1.765レベルでスタート。月初は緩やかなルピー高となる中、ドル円は株高を横目に113円前半まで上伸。このタイミングでルピー/円は当月高値である1.77目前まで上昇。ただし、その後についてはドルに対してルピーが軟調な動きとなる中、NAFTA離脱検討との話題や米12月PPIを受けた米金利低下、既述米政府機関閉鎖関連トピックもありドル/円は111円を割り込む展開。これを受けて17日にルピー/円は1.72ちょうど近辺まで売り込まれる。月末にかけても、ドル/円が軟調となる中ルピー/円も上向かず、24日執筆で1.72レベルの取引となっている。

## 今月の見通し

【2月の米ドル/インドルピーは上値の重い展開を予想】

1月のインド経済指標は製造業PMI(54.7、統計開始以来最高)・鉱工業生産(前年比8.4%、25か月ぶり高)・消費者物価指数(CPI)(前年比+5.21%17か月ぶり上昇幅)・輸入(前年比+21.1%増)とおしなべて強い結果が並んだ。

特に注目すべき点は2点。①物価、内訳項目を参照するとFood、Housingが牽引やくとなりヘッドラインCPIは続伸。RBIのターゲットの中央値である4%を明確に突き抜けてきている。上昇している原油価格および食料品の変動を抜いたコアベースで見ても4.9%となっており、先月の本欄でも触れたように幅広くインドの物価は上昇している。これに呼応するようにRBIの政策金利引き上げ期待は高まっており、未だマジョリティではないものの市場参加者の一部では2月7日会合での利上げ予想も出てきている。

注目点の②は貿易収支、直近3か月(発表日ベース)の貿易赤字を合算すると▲427億ドルの赤字であり、これは昨年(1月-7月)を合算した▲456億ドルに迫る勢いである。赤字が増えている要因としては原油価格が上昇した要因もあるが、同時に金輸入も増えており、個人消費の強さがうかがわれる内容となっている。

経済指標は良好であり、物価は上昇中。これらを背景に利上げ観測の強まりとなればベースシナリオはルピー高となる。ただし、貿易赤字の急激な拡大(輸入増)は実需筋のルピー売り/外貨買いを意味し、ルピー安要因となる。また今後利上げ織り込みが更に進む場面では株式市場の軟調化も予想され、仮にそうなれば昨年大きくルピー買いに資した外国人投資家の資金逆流も視野に入るだろう。また大幅にルピー高が進行するケースを想定すると、先月本欄で触れたようにRBIの為替介入についても付言しておきたいところ。

ドル/ルピー相場予想をするに際し根底をなす部分あるいは中期の予想ではルピー高であるが上述のようにルピー高に抗う要因も浮上してきている。2月の見通しはドル/ルピーの「下落」というよりは現状安値圏で「上値の重い展開」という表現にしておく。

## 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で今流行っていること』

インドといえばハリウッド映画が有名ですが、現在とある作品がブームならぬ物議を醸しております。

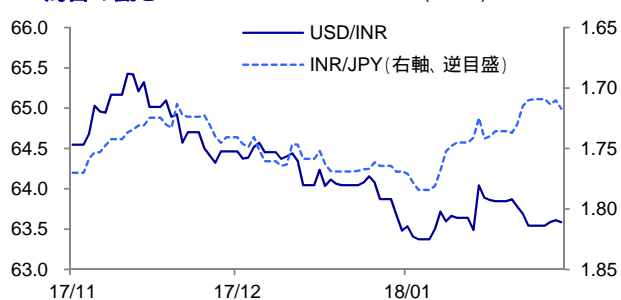
『Padmaavat』と呼ばれる映画のタイトルのにもなっている、ラジャスタン地方に存在したクシャトリア集団のヒンドゥー王朝、そこで絶世の美女と言われたパドミニ王妃を主役にした実話に基づくストーリーです。

この作品での問題シーン、王朝への侵略をたくらむムスリムの若武将とのロマンスシーンが存在する(らしい)との話から一部のクシャトリアカーストによる激しい抗議行動に発展。最高裁も反発は止められず、かつて王朝が存在したラジャスタン州をはじめ、同王朝子孫を多く擁する数州で上映廃止が決定されています。(実際の問題シーンは部外者である非インド人から見るといった控えめに描かれているようですが)。

ちなみに主演の王妃を演じる女優はモデルも務めるディピカ・パドゥコーン。こちらの作品、日本でもほぼ同時公開と話題性も十分、彼女の美貌を見るために映画館に足をお運びいただく価値あり、またお忙しい方はインターネットの画像検索で『Deepika Padukone』と検索していただくだけの価値はあるかと思います。(ニューデリー 長谷川)

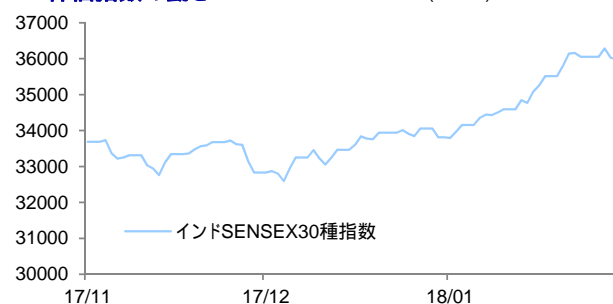
## 為替の動き

(資料) ブルームバーク



## 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



## 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

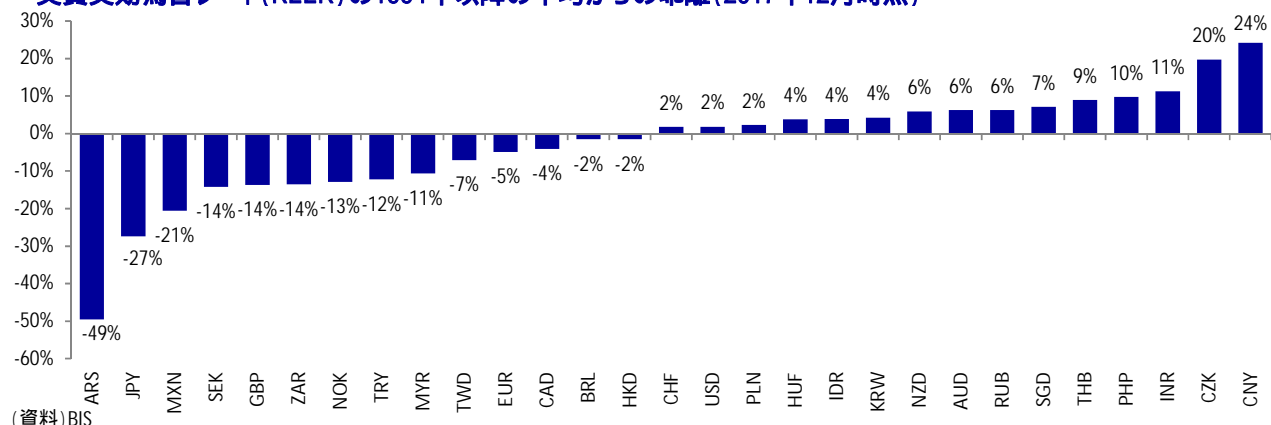
発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
1/1	製造業PMI	12月	-	54.7	52.6
1/12	消費者物価指数(前年比)	12月	5.10%	5.21%	4.88%
1/12	鉱工業生産(前年比)	11月	4.4%	8.4%	3.9%
1/15	貿易収支(前年比)	12月	-130億ドル	-149億ドル	-138億ドル

## 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2017年末	2018年1月末	騰落率	株式市場	2017年末	2018年1月末	騰落率	USD換算
<b>先進国</b>									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	24719.22	26149.39	5.8%	-
日本	USD/JPY	112.69	109.19	-3.1%	日経平均株価	22764.94	23098.29	1.5%	4.7%
ユーロ圏	EUR/USD	1.2005	1.2414	3.4%	ドイツDAX指数	12917.64	13189.48	2.1%	2.1%
英国	GBP/USD	1.3513	1.4191	5.0%	ロンドンFTSE100指数	7687.77	7533.55	-2.0%	-6.7%
豪州	AUD/USD	0.7809	0.8055	3.2%	S&P/ASX200指数	6065.129	6037.683	-0.5%	-3.5%
カナダ	USD/CAD	1.2571	1.2315	-2.0%	S&Pトロント総合指数	16209.13	15951.67	-1.6%	0.5%
<b>エマージングアジア</b>									
中国	USD/CNY	6.5068	6.2888	-3.4%	上海総合	3307.172	3480.833	5.3%	8.9%
香港	USD/HKD	7.814	7.8229	0.1%	香港ハンセン	29919.15	32887.27	9.9%	9.8%
インド	USD/INR	63.8725	63.5875	-0.4%	インドSENSEX30種	34056.83	35965.02	5.6%	6.1%
インドネシア	USD/IDR	13555	13386	-1.2%	ジャカルタ総合	6355.654	6605.631	3.9%	5.2%
韓国	USD/KRW	1067.4	1067.75	0.0%	韓国総合株価	2467.49	2566.46	4.0%	4.0%
マレーシア	USD/MYR	4.0465	3.8985	-3.7%	ブルサマレーシアKLCI	1796.81	1868.58	4.0%	7.9%
フィリピン	USD/PHP	49.85	51.335	3.0%	フィリピン総合	8558.42	8764.01	2.4%	-0.6%
シンガポール	USD/SGD	1.336	1.3121	-1.8%	シンガポールST	3402.92	3533.99	3.9%	5.7%
台湾	USD/TWD	29.733	29.141	-2.0%	台湾加権	10642.86	11103.79	4.3%	6.5%
タイ	USD/THB	32.574	31.335	-3.8%	タイSET	1753.71	1826.86	4.2%	8.3%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

## 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2017年12月時点)



(資料) BIS

## 実質GDP成長率

	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2017Q1	2017Q2	2017Q3	2017Q4	2016	2017
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.2	2.8	1.8	1.2	3.1	3.2	2.6	1.5	2.3
日本*	1.6	0.9	1.4	1.5	2.9	2.5		0.9	
ユーロ圏	1.8	1.7	1.9	2.1	2.4	2.8	2.7	1.8	
英国	1.8	2.0	2.0	2.1	1.9	1.7	1.5	1.9	1.8
豪州	3.3	2.1	2.4	1.8	1.9	2.8		2.6	
カナダ*	-1.0	4.3	2.3	3.7	4.3	1.7		1.4	
エマージングアジア									
中国	6.7	6.7	6.8	6.9	6.9	6.8	6.8	6.7	6.9
香港	1.8	2.0	3.2	4.3	3.9	3.6		2.0	
インド	7.9	7.5	7.0	6.1	5.7	6.3		7.1	
インドネシア	5.2	5.0	4.9	5.0	5.0	5.1		5.0	
韓国	3.4	2.6	2.4	2.9	2.7	3.8	3.0	2.8	3.0
マレーシア	4.0	4.3	4.5	5.6	5.8	6.2		4.2	
フィリピン	7.1	7.1	6.6	6.4	6.7	7.0	6.6	6.9	6.7
シンガポール	1.9	1.2	2.9	2.5	3.0	5.4	3.1	2.0	3.5
台湾	1.0	2.0	2.8	2.6	2.3	3.1	3.3	1.4	2.8
タイ	3.6	3.2	3.0	3.3	3.8	4.3		3.2	

(注)インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

## 失業率

	17/06	17/07	17/08	17/09	17/10	17/11	17/12	2016	2017
	(%)							(%)	
先進国									
米国	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2	4.1	4.1	4.9	4.4
日本	3.1	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	3.1	2.8
ユーロ圏	9.2	9.1	9.0	9.0	8.9	8.8	8.7	10.0	9.1
英国	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3		4.9	4.5
豪州	5.5	5.6	5.6	5.6	5.5	5.4	5.4	5.7	5.6
カナダ	6.6	6.5	6.3	6.2	6.2	6.3	5.9	7.0	6.4
エマージングアジア									
中国	4.0			4.0				4.0	4.0
香港	3.2	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.4	3.1
インドネシア			5.5					5.6	5.4
韓国	3.6	3.8	3.6	3.8	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7
マレーシア	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3		3.5	3.4
フィリピン		5.6			5.0			5.5	5.7
シンガポール	2.2			2.2				2.1	2.2
台湾	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8
タイ	1.1	1.2	1.1	1.2	1.3	1.1	1.0	1.0	1.2

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

## 消費者物価上昇率

	17/07	17/08	17/09	17/10	17/11	17/12	18/01	2016	2017
	(前年比%)							(前年比%)	
先進国									
米国	1.7	1.9	2.2	2.0	2.2	2.1		1.3	2.1
日本	0.4	0.7	0.7	0.2	0.6	1.0		-0.1	0.5
ユーロ圏	1.3	1.5	1.5	1.4	1.5	1.4	1.3	0.2	1.5
英国	2.6	2.9	3.0	3.0	3.1	3.0		0.7	3.0
豪州			1.8					1.3	1.9
カナダ	1.2	1.4	1.6	1.4	2.1	1.9		1.4	1.6
エマージングアジア									
中国	1.4	1.8	1.6	1.9	1.7	1.8		2.0	1.6
香港	2.0	1.9	1.4	1.5	1.6	1.7		2.4	1.5
インド	2.4	3.3	3.3	3.6	4.9	5.2		5.0	3.3
インドネシア	3.9	3.8	3.7	3.6	3.3	3.6		3.5	3.8
韓国	2.2	2.6	2.1	1.8	1.3	1.5	1.0	1.0	1.5
マレーシア	3.2	3.7	4.3	3.7	3.4	3.5		2.1	3.9
フィリピン	2.8	3.1	3.4	3.5	3.3	3.3		1.8	3.2
シンガポール	0.6	0.4	0.4	0.4	0.6	0.4		-0.5	0.6
台湾	0.8	1.0	0.5	-0.3	0.3	1.2		1.4	
タイ	0.2	0.3	0.9	0.9	1.0	0.8		0.2	0.7

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

## 経常収支

	2016Q1	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2017Q1	2017Q2	2017Q3	2015	2016
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.4	-2.4	-2.4	-2.4	-2.3	-2.4	-2.3	-2.4	-2.4
日本	3.4	3.5	3.6	3.8	3.8	3.8	4.0	3.1	3.8
ユーロ圏	3.3	3.5	3.4	3.3	3.3	3.0	3.2	3.2	3.3
英国	-5.4	-5.8	-6.4	-5.8	-5.3	-5.2	-4.6	-5.2	-5.8
豪州	-3.7	-3.9	-2.9	-1.1	-1.3	-2.2	-2.0	-4.7	-2.9
カナダ	-3.5	-3.6	-3.6	-3.2	-2.9	-2.8	-2.8	-3.6	-3.2
エマージングアジア									
中国	2.5	2.4	2.4	1.8	1.5	1.3	1.0	2.8	1.8
香港	4.3	4.6	4.1	3.8	3.4	3.7	4.4	3.3	3.8
インド	-1.1	-0.8	-0.5	-0.6	-0.7	-1.3	-1.4	-1.1	-0.6
インドネシア	-2.1	-2.2	-2.2	-1.8	-1.5	-1.4	-1.3	-2.1	-1.8
韓国	8.0	8.0	7.4	7.0	6.3	5.5	5.6	7.7	7.0
マレーシア	2.4	1.9	1.9	2.1	2.0	2.6	3.0	2.9	2.1
フィリピン	2.1	1.1	1.0	0.2	-0.2	-0.3	-0.3	2.5	0.2
シンガポール	17.2	18.8	19.5	19.0	19.9	19.3	18.8	18.1	19.0
台湾	14.0	14.3	13.6	13.4	12.8	12.6	13.2	14.4	13.4
タイ	9.9	11.0	12.2	11.9	11.2	10.7	10.9	8.1	11.9

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

## 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	(単位:bp)	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	1.25 - 1.50	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2017/12/13	+25	2018/1/31	現状維持
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10	2018/1/23	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5	2018/1/23	現状維持
英国	バンク・レート	0.50	引き締め: 2017/11/2	0.25	2017/11/2	+25	2017/12/14	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	1.50	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/8/2	-25	2017/12/6	現状維持
カナダ	翌日物金利	1.25	引き締め: 2017/7/12	0.50	2018/1/17	+25	2018/1/17	+25bp
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/8/25	-25	2015/10/23	-25bp
インド	翌日物レボ金利	6.00	緩和: 2015/1/15	8.00	2017/8/2	-25	2017/12/6	現状維持
インドネシア	7日物リバースレポレート	4.25	緩和: 2015/2/17	7.75	2017/9/22	-25	2018/1/18	現状維持
韓国	7日物レボ金利	1.50	引き締め: 2017/11/30	1.25	2017/11/30	+25	2018/1/18	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.25	引き締め: 2018/1/23	3.00	2018/1/23	+25	2018/1/23	+25bp
フィリピン	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/5/16	3.00	2016/5/16	-100	2017/12/14	現状維持
タイ	翌日物レボ金利	1.50	緩和: 2011/11/30	3.50	2015/3/11	-25	2017/12/20	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	6.25	緩和: 2012/3/12	15.00	2017/7/7	-25	2017/7/7	-25bp

(注) インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBIレートを7日物リバースレポレートに変更

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行